

I 調査の概要

1 目的

学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

2 調査の根拠

学校保健統計調査規則（昭和 27 年文部省令第 5 号）に基づいて実施される基幹統計調査。

3 調査の範囲・対象

(1) 調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校（以下「調査実施校」という。）。

(2) 調査の対象は、調査実施校に在籍する満 5 歳から 17 歳（令和 5 年 4 月 1 日現在）までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部。

※幼稚園には幼保連携型認定こども園を含む。

※小学校には義務教育学校の第 1～6 学年、中学校には義務教育学校の第 7～9 学年を含む。

※幼稚園は 5 歳、小学校は 6 歳～11 歳、中学校は 12 歳～14 歳、高等学校は 15 歳～17 歳の区分。

4 調査事項

(1) 発育状態調査

児童等の発育状態（身長及び体重）

(2) 健康状態調査

児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患の有無、皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、結核に関する検診の結果、心臓の疾病・異常の有無、尿及びその他の疾病・異常の有無）

(3) 相談員配置状況（退職教員、保育士、民生児童委員など地域の人材等）

児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また学校と保護者・地域のパイプ役として、不登校・問題行動等の未然防止や早期発見・早期対応に当たる者。

(4) スクールカウンセラー配置状況（臨床心理士、精神科医、心理学系の大学の常勤教員等）

臨床心理に関し高度に専門的な知識・経験を有する者であり、心の専門家として、専門性を有しつつ、児童生徒へのカウンセリング、教職員及び保護者に対する助言・援助を行う者。

5 調査の期日

令和 5 年 4 月 1 日から同年 6 月 30 日までの間に実施された学校保健安全法（昭和 33 年法律第 56 号）による健康診断の結果に基づき調査。ただし、令和 5 年度においても令和 2 年度から引き続き、令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの 1 年間に実施された健康診断の結果。

6 調査実施校数及び調査対象者数

調査実施校数、調査対象者数は次のとおりである。

調査実施校の内訳

区 分	学校数 (園、校)	幼児・児童 生徒数(人)	調査実施 校数 (園、校)	発育状態調査		健康状態調査	
				対象者数(人)	抽出率(%)	対象者数(人)	抽出率(%)
幼稚園 (5歳児)	62	1,806	27	851	47.1	969	53.7
小学校	120	27,901	56	5,240	18.8	18,524	66.4
中学校	62	14,212	36	4,150	29.2	11,308	79.6
高等学校	32	13,868	23	2,019	14.6	11,800	85.1
計	276	57,787	142	12,260	21.2	42,601	73.7

注 1：抽出率＝（調査対象者数）／（令和 5 年度学校基本調査各校区の園児数、児童数及び生徒数（確報値））

注 2：幼稚園の学校数及び園児数は、幼保連携型認定こども園の数値を含む。

注 3：小学校の学校数及び児童数は、義務教育学校（第 1 学年～第 6 学年）の数値を含む

注 4：中学校の学校数及び児童数は、義務教育学校（第 7 学年～第 9 学年）の数値を含む

II 調査結果の概要

1 発育状態

(1) 身長

身長推移は、男女ともに昭和50年代から横ばい傾向となっているが、男子は11歳と14歳、女子は11歳で過去最高であった。

ア 前年度との比較

- 男子で大きく増減した年齢は、17歳の170.2cm(前年度より1.3cm減)で、次いで13歳の160.8cm(同0.7cm減)及び14歳の166.4cm(同0.7cm増)であった。また、11歳と14歳で過去最高であった。
- 女子で大きく増減した年齢は、9歳の135.0cm(同0.9cm増)で、次いで12歳の152.6cm(同0.5cm増)であった。また、11歳で過去最高であった。

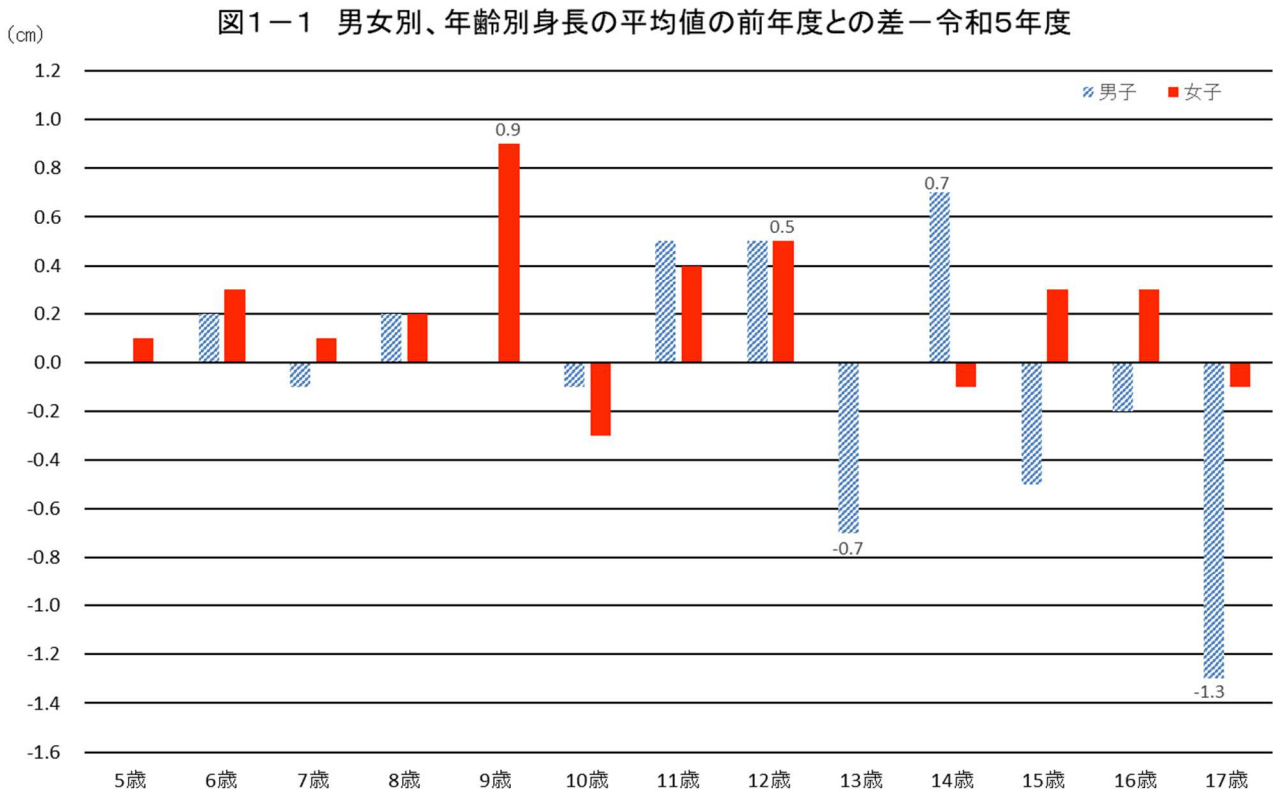
イ 全国との比較

- 男子をみると、10歳の139.1cm及び17歳の170.2cmで0.5cm下回り、次いで14歳の166.4cmで0.4cm上回った。
- 女子をみると、9歳の135.0cmで0.6cm上回り、次いで8歳の128.3cmで0.5cm上回った。

ウ 30年前(親の世代:平成5年度)との比較

- 男子で大きく増減した年齢は、12歳の154.0cm(30年前より2.4cm増)で、次いで14歳の166.4cm(同1.8cm増)、13歳の160.8cm(同1.7cm増)であった。
- 女子で大きく増減した年齢は、9歳の135.0cm(同1.8cm増)で、次いで10歳の141.2cm(同1.4cm増)、11歳の148.3cm及び12歳の152.6cm(同1.2cm増)であった。

(図1-1~1-5、表1-1 統計表 表1、表2-1~2-2)



(注) 男子の5歳及び9歳、女子の13歳は前年度と同水準

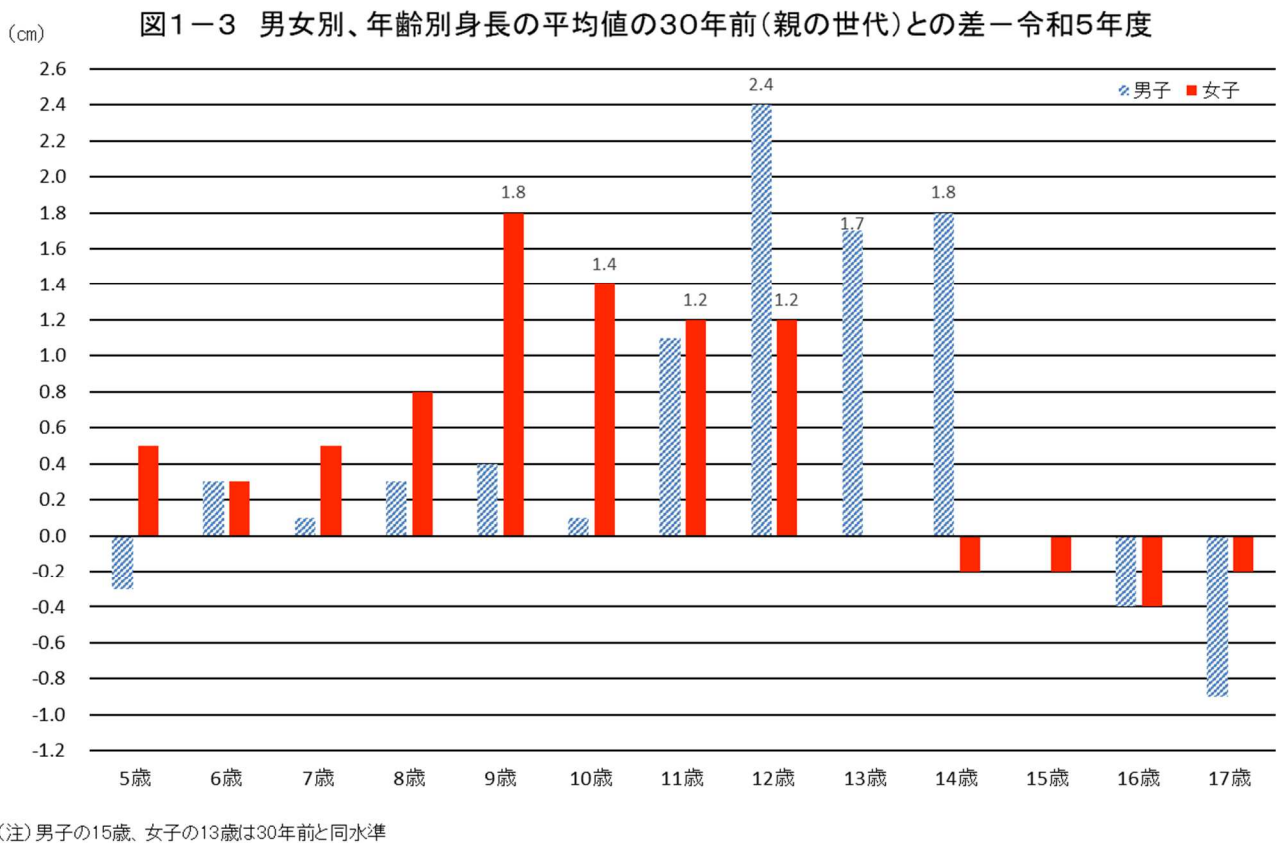
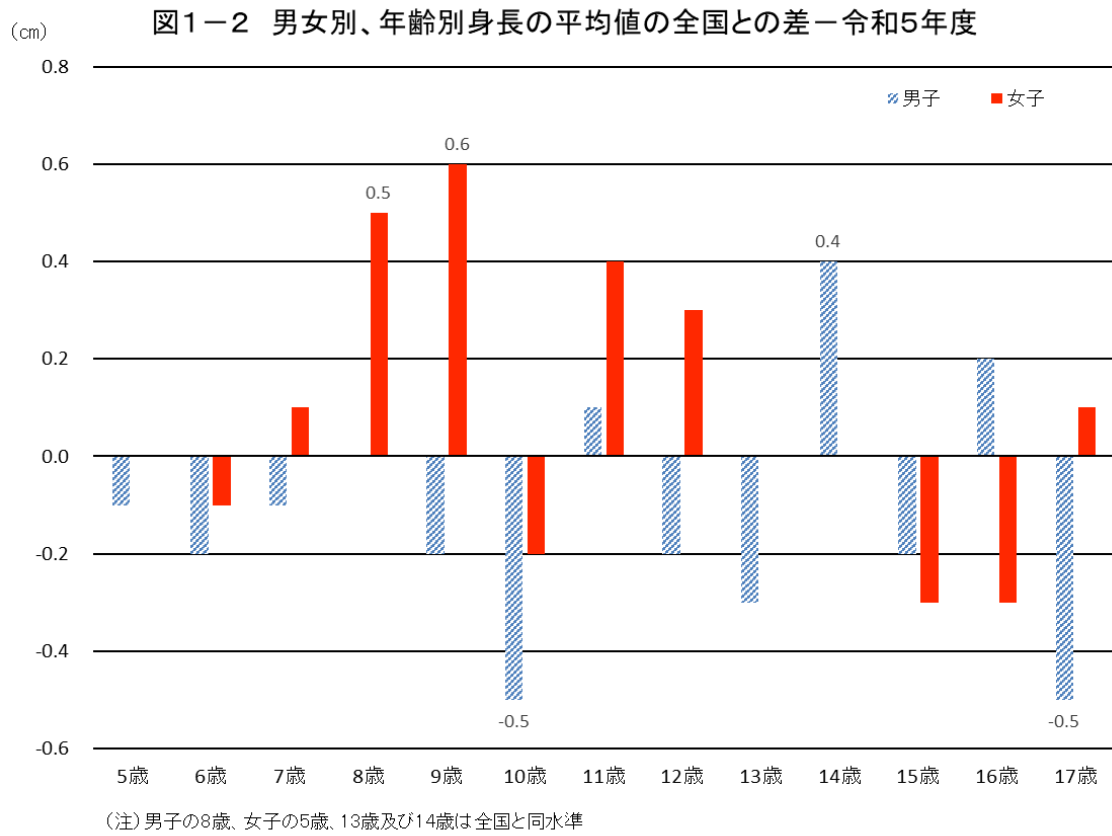


図1-4 男子、年齢別、平均身長推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

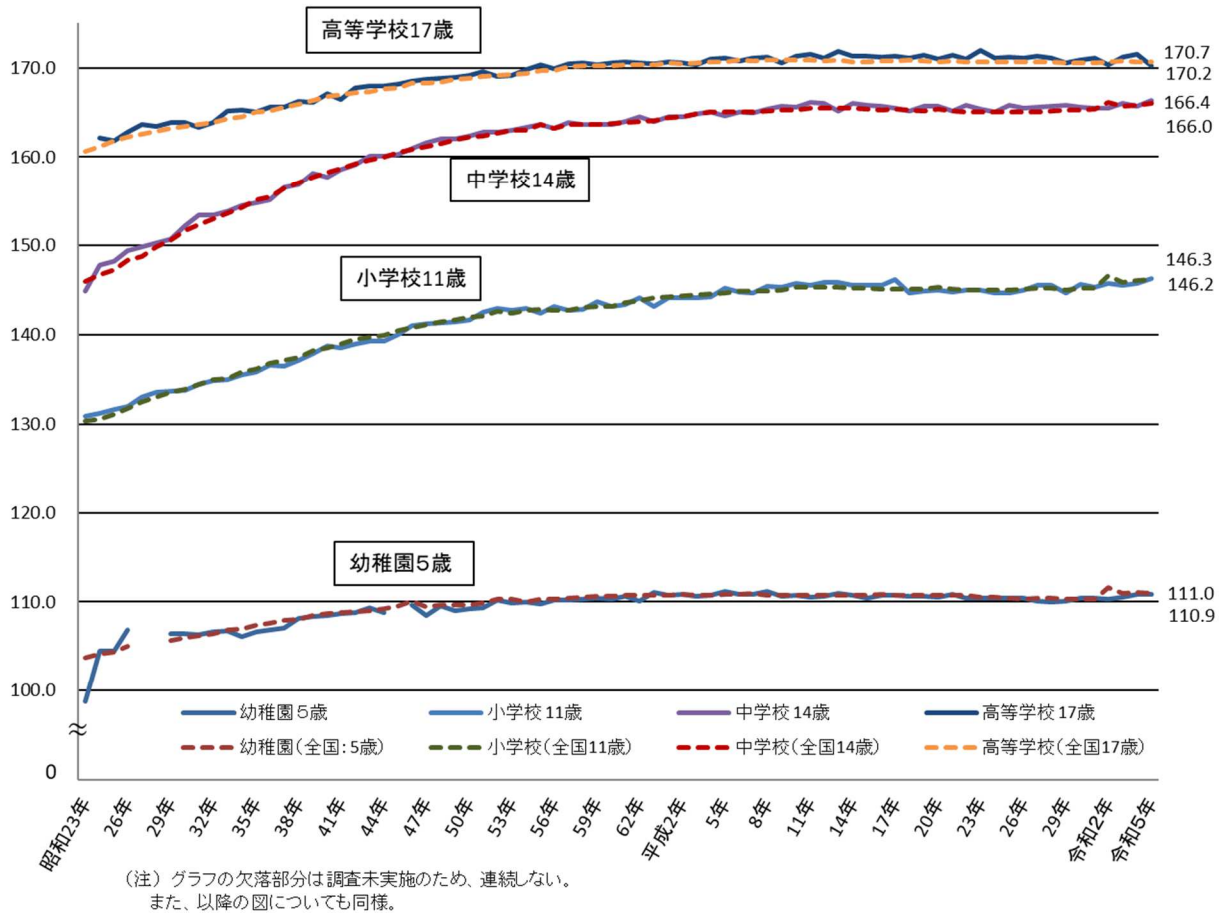


図1-5 女子、年齢別、平均身長推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

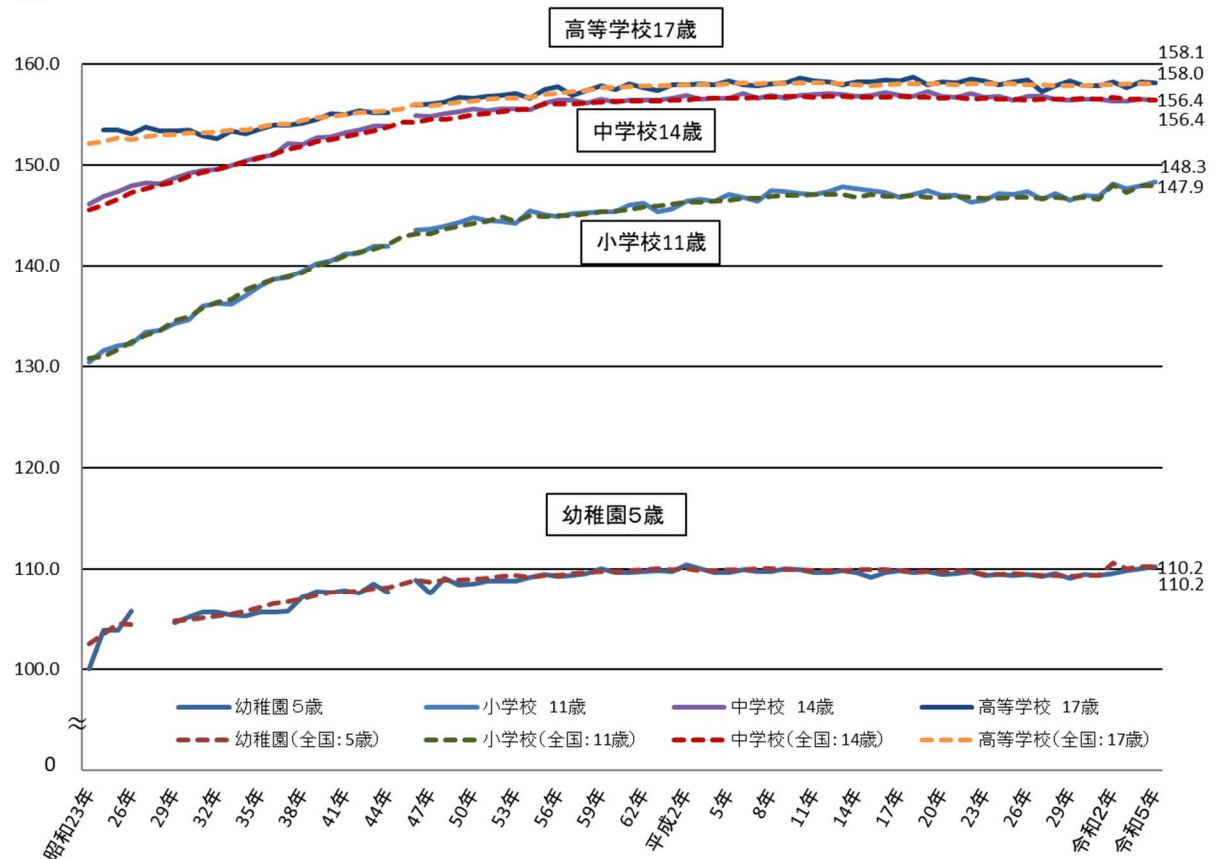


表1-1 男女別、年齢別身長の平均値の比較(鳥取県:令和5年度、令和4年度、平成5年度/全国:令和5年度)

(単位:cm)

区分		令和5年度 (A)	令和4年度 (B)	前年度との差 (A-B)	全国(R5) (C)	全国との差 (A-C)	30年前(親の世代) <平成5年度> (D)	親の世代との差 (A-D)		
男子	幼稚園	5歳	110.9	110.9	0.0	111.0	-0.1	111.2	-0.3	
	小学校	6歳	116.7	116.5	0.2	116.9	-0.2	116.4	0.3	
		7歳	122.9	123.0	-0.1	123.0	-0.1	122.8	0.1	
		8歳	128.6	128.4	0.2	128.6	0.0	128.3	0.3	
		9歳	133.9	133.9	0.0	134.1	-0.2	133.5	0.4	
		10歳	139.1	139.2	-0.1	139.6	-0.5	139.0	0.1	
		11歳	146.3	145.8	0.5	146.2	0.1	145.2	1.1	
	中学校	12歳	154.0	153.5	0.5	154.2	-0.2	151.6	2.4	
		13歳	160.8	161.5	-0.7	161.1	-0.3	159.1	1.7	
		14歳	166.4	165.7	0.7	166.0	0.4	164.6	1.8	
	高等学校	15歳	168.4	168.9	-0.5	168.6	-0.2	168.4	0.0	
		16歳	170.1	170.3	-0.2	169.9	0.2	170.5	-0.4	
		17歳	170.2	171.5	-1.3	170.7	-0.5	171.1	-0.9	
	女子	幼稚園	5歳	110.2	110.1	0.1	110.2	0.0	109.7	0.5
		小学校	6歳	115.9	115.6	0.3	116.0	-0.1	115.6	0.3
7歳			122.2	122.1	0.1	122.1	0.1	121.7	0.5	
8歳			128.3	128.1	0.2	127.8	0.5	127.5	0.8	
9歳			135.0	134.1	0.9	134.4	0.6	133.2	1.8	
10歳			141.2	141.5	-0.3	141.4	-0.2	139.8	1.4	
11歳			148.3	147.9	0.4	147.9	0.4	147.1	1.2	
中学校		12歳	152.6	152.1	0.5	152.3	0.3	151.4	1.2	
		13歳	155.0	155.0	0.0	155.0	0.0	155.0	0.0	
		14歳	156.4	156.5	-0.1	156.4	0.0	156.6	-0.2	
高等学校		15歳	156.9	156.6	0.3	157.2	-0.3	157.1	-0.2	
		16歳	157.5	157.2	0.3	157.8	-0.3	157.9	-0.4	
		17歳	158.1	158.2	-0.1	158.0	0.1	158.3	-0.2	

(注)30年前(親の世代)は、平成5年度の数値。

(2) 体重

体重の推移は、男子は平成8年度あたりから、女子は平成5年度あたりから横ばい傾向となっているが、女子は11歳で前年度に引き続き過去最高であった。

ア 前年度との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、17歳の61.3kg(前年度より2.2kg減)で、次いで10歳の34.3kg(同1.1kg減)、13歳の49.7kg(同1.0kg減)であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、10歳の34.8kg(同0.7kg減)で、次いで13歳の47.7kg(同0.6kg減)、15歳の50.8kg(同0.3kg減)であった。また、11歳で前年度に引き続き過去最高であった。

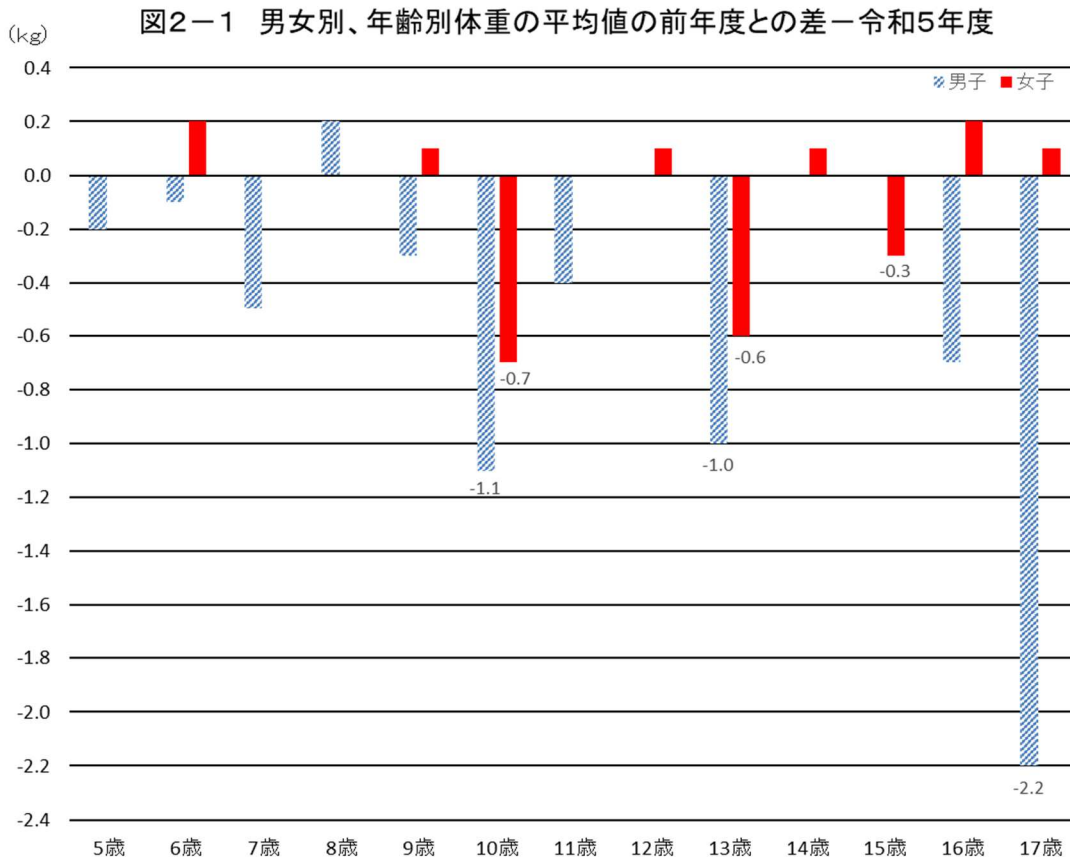
イ 全国との比較

- ・男子をみると、10歳の34.3kgで1.0kg下回り、次いで13歳の49.7kgで0.9kg下回った。
- ・女子をみると、11歳の40.7kg及び14歳の50.3kgで0.5kg上回り、10歳の34.8kgで0.5kg下回った。

ウ 30年前(親の世代:平成5年度)との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、12歳の45.1kg(30年前より2.2kg増)で、次いで11歳の39.6kg(同1.9kg増)、13歳の49.7kg(同1.7kg増)であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、15歳の50.8kg(同1.9kg減)、次いで17歳の52.5kg(同1.6kg減)、12歳の44.8kg(同1.3kg増)であった。

(図2-1~2-5、表1-2 統計表 表1、表3-1~3-2)



(注)男子の12歳、14歳及び15歳、女子の5歳、7歳、8歳及び11歳については、前年度と同水準

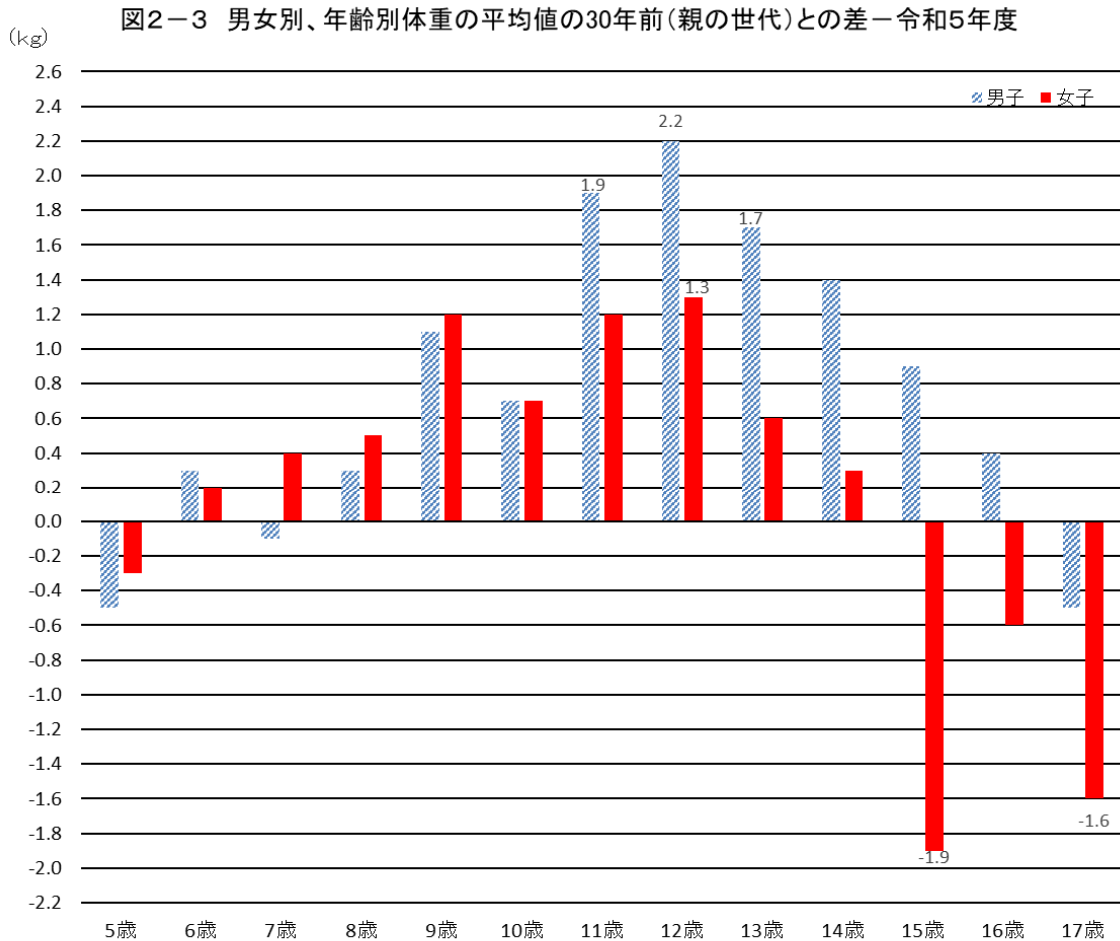
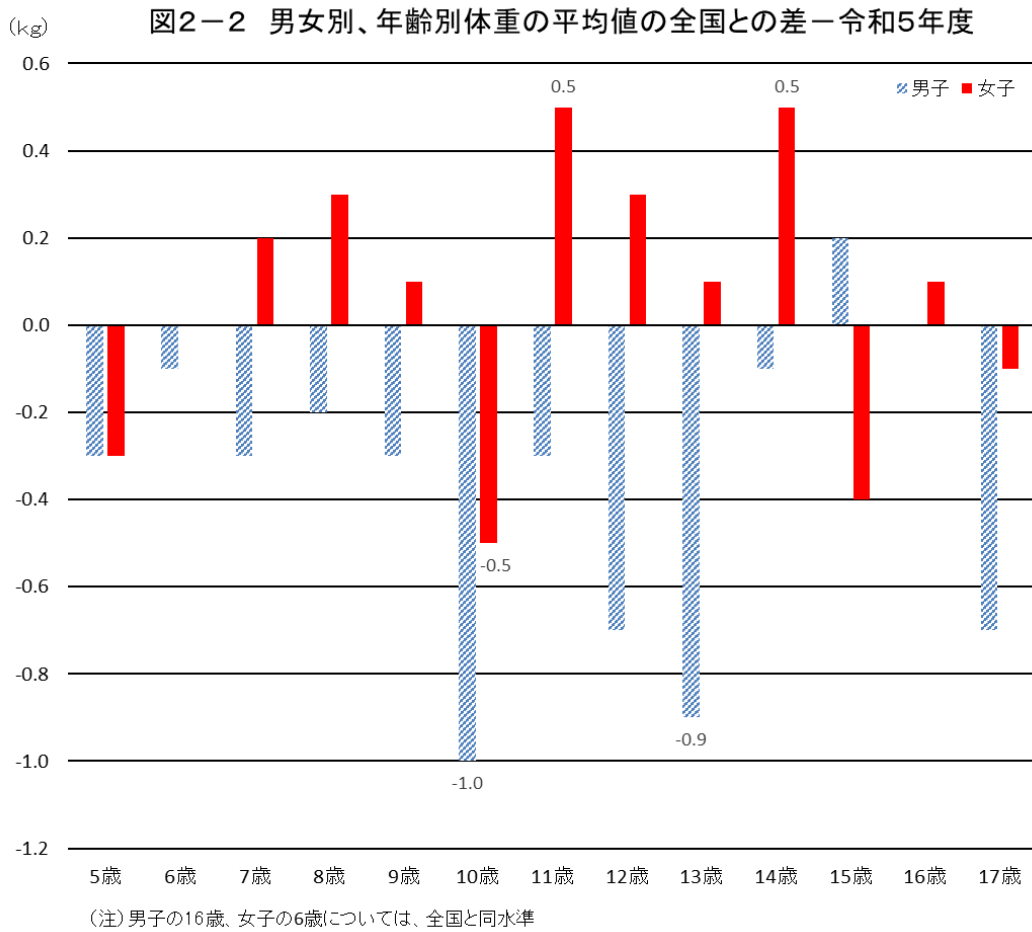


図2-4 男子、年齢別、平均体重の推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

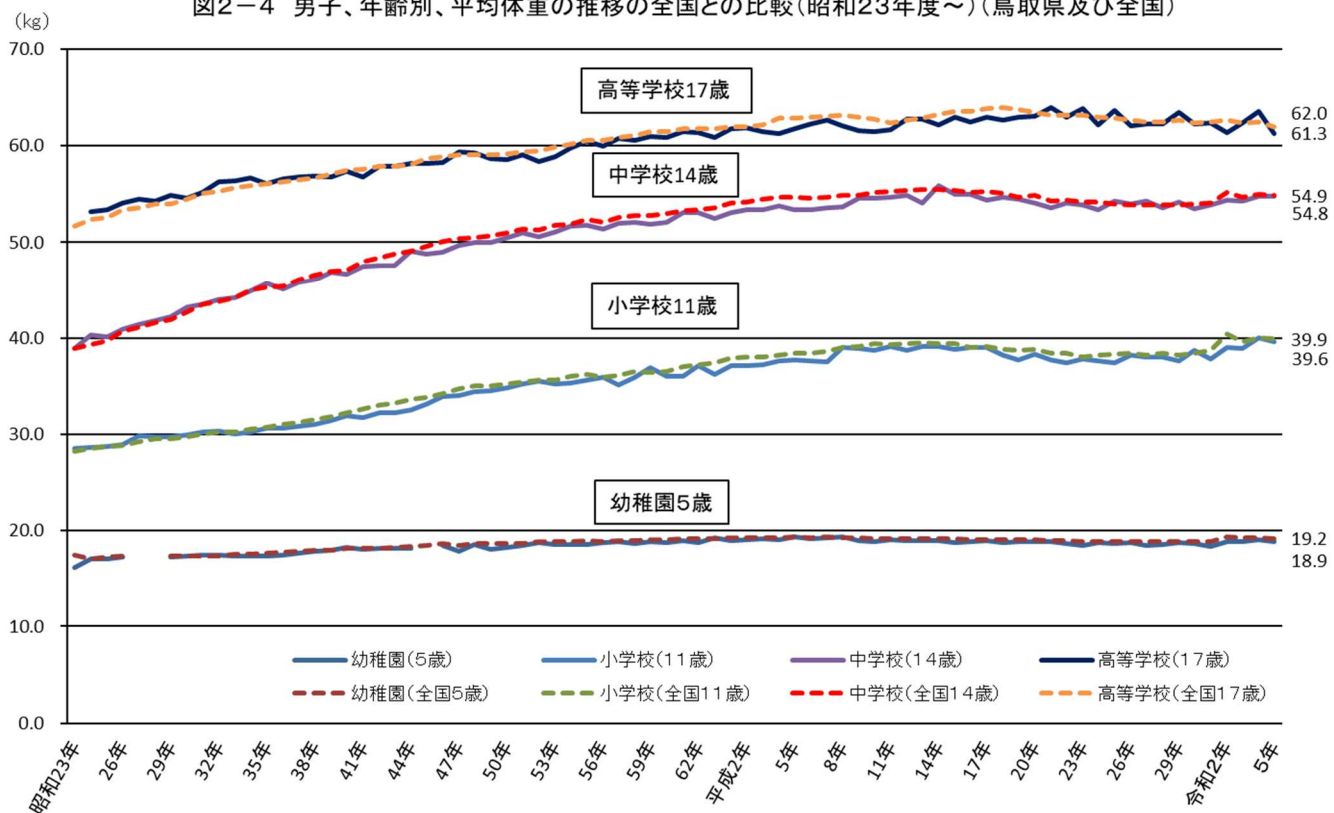


図2-5 女子、年齢別、平均体重の推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

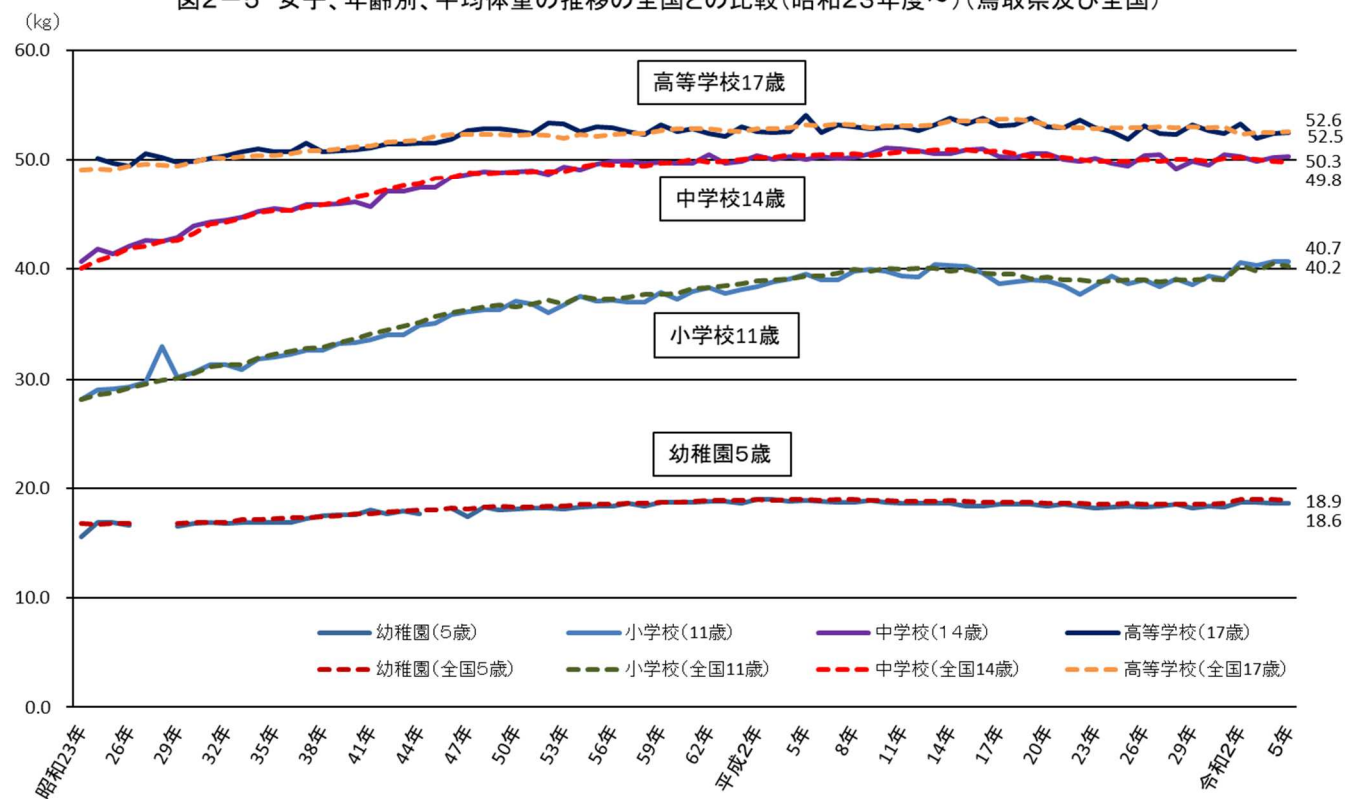


表1-2 男女別、年齢別体重の平均値の比較(鳥取県:令和5年度、令和4年度、平成5年度/全国:令和5年度)

(単位:kg)

区 分		令和5年度 (A)	令和4年度 (B)	前年度との差 (A-B)	全国(R5) (C)	全国との差 (A-C)	30年前(親の世代) <平成5年度> (D)	親の世代との差 (A-D)	
男子	幼稚園	5歳	18.9	19.1	-0.2	19.2	-0.3	19.4	-0.5
	小学校	6歳	21.5	21.6	-0.1	21.6	-0.1	21.2	0.3
		7歳	24.2	24.7	-0.5	24.5	-0.3	24.3	-0.1
		8歳	27.6	27.4	0.2	27.8	-0.2	27.3	0.3
		9歳	31.1	31.4	-0.3	31.4	-0.3	30.0	1.1
		10歳	34.3	35.4	-1.1	35.3	-1.0	33.6	0.7
		11歳	39.6	40.0	-0.4	39.9	-0.3	37.7	1.9
	中学校	12歳	45.1	45.1	0.0	45.8	-0.7	42.9	2.2
		13歳	49.7	50.7	-1.0	50.6	-0.9	48.0	1.7
		14歳	54.8	54.8	0.0	54.9	-0.1	53.4	1.4
	高等学校	15歳	59.2	59.2	0.0	59.0	0.2	58.3	0.9
		16歳	60.4	61.1	-0.7	60.4	0.0	60.0	0.4
		17歳	61.3	63.5	-2.2	62.0	-0.7	61.8	-0.5
女子	幼稚園	5歳	18.6	18.6	0.0	18.9	-0.3	18.9	-0.3
	小学校	6歳	21.2	21.0	0.2	21.2	0.0	21.0	0.2
		7歳	24.2	24.2	0.0	24.0	0.2	23.8	0.4
		8歳	27.3	27.3	0.0	27.0	0.3	26.8	0.5
		9歳	31.1	31.0	0.1	31.0	0.1	29.9	1.2
		10歳	34.8	35.5	-0.7	35.3	-0.5	34.1	0.7
		11歳	40.7	40.7	0.0	40.2	0.5	39.5	1.2
	中学校	12歳	44.8	44.7	0.1	44.5	0.3	43.5	1.3
		13歳	47.7	48.3	-0.6	47.6	0.1	47.1	0.6
		14歳	50.3	50.2	0.1	49.8	0.5	50.0	0.3
	高等学校	15歳	50.8	51.1	-0.3	51.2	-0.4	52.7	-1.9
		16歳	52.3	52.1	0.2	52.2	0.1	52.9	-0.6
		17歳	52.5	52.4	0.1	52.6	-0.1	54.1	-1.6

(注) 30年前(親の世代)は、平成5年度の数値。

(3) 肥満傾向児の出現率

・肥満傾向児の出現率は、6歳を除くすべての年齢で全国を下回っており、特に9歳は9.05%で全国(11.03%)を1.98ポイント下回った。また、6歳(5.07%)及び8歳(9.06%)で過去最多であった。

ア 前年度との比較

- ・前年度と比べると、5歳、6歳、8歳及び15歳で増加し、それ以外の年齢で減少した。特に11歳は11.23%で前年度(13.78%)を2.55ポイント下回った。また、6歳(5.07%)及び8歳(9.06%)については、現在の計算方式になった平成18年度以降で過去最多であった。
- ・男女別にみると、男子は、6歳、8歳、9歳、12歳及び15歳の年齢で増加した。女子は、5歳、7歳、8歳、10歳及び16歳で増加した。

イ 全国との比較

- ・6歳を除くすべての年齢で全国を下回っており、特に9歳は9.05%で全国(11.03%)を1.98ポイント下回った。また、男子はすべての年齢で全国を下回った。

(図3-1～3-2、表1-3～1-5 統計表 表4-1～4-2)

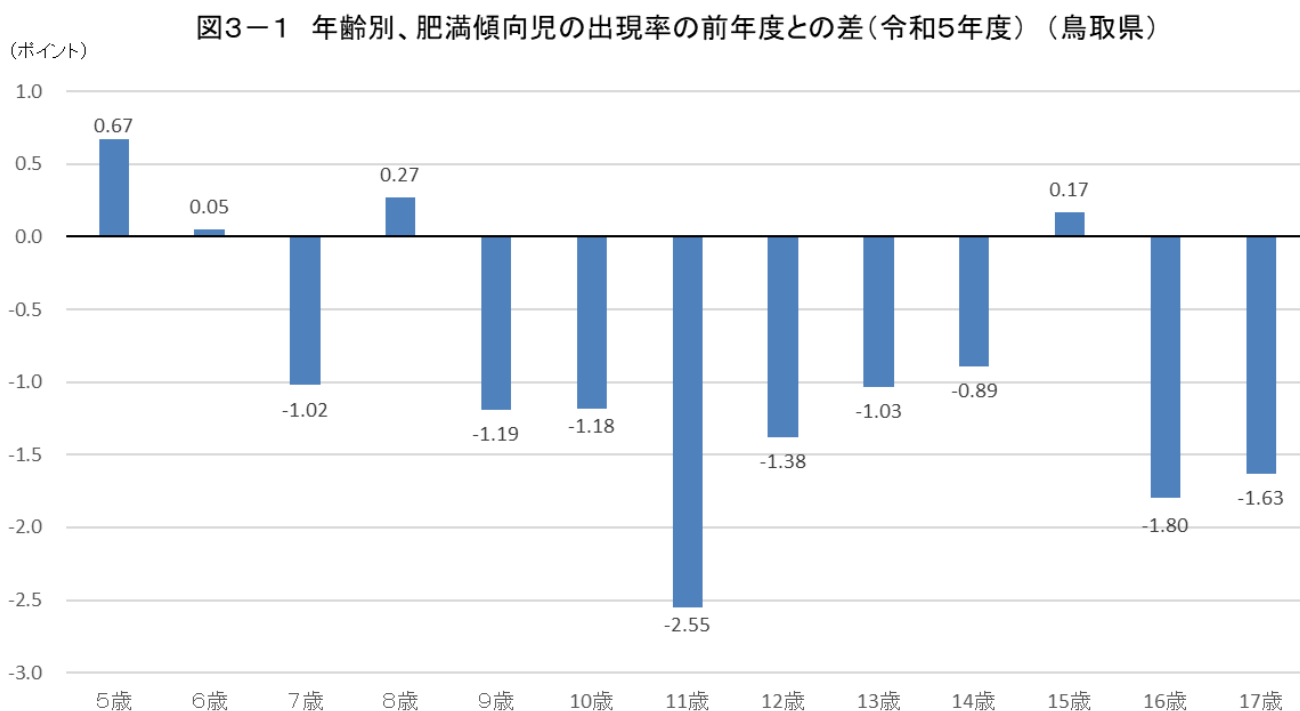


図3-2 年齢別、肥満傾向児の出現率の全国との差(令和5年度)

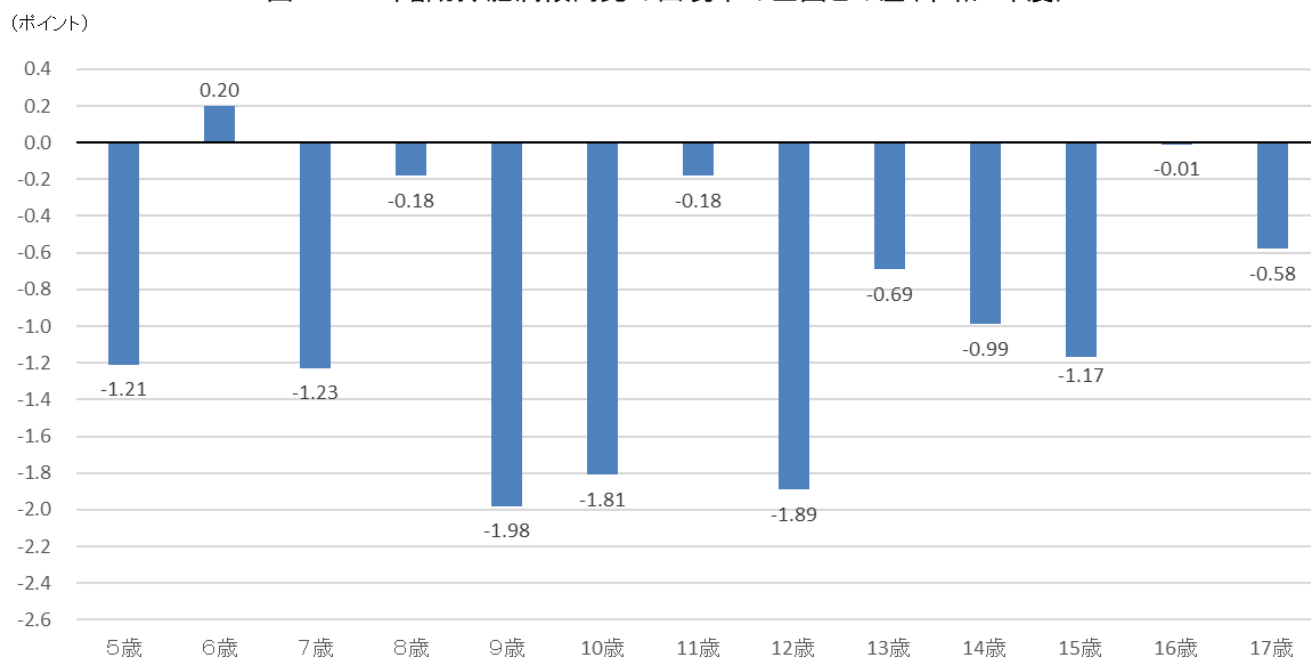


表1-3 年齢別肥満傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和5年度)(鳥取県:計)

(単位: %、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	2.73	4.68	6.53	7.24	9.01	5.81	8.32	10.08	8.78	9.21	11.68	11.59	8.25
19年	1.75	4.87	6.09	6.80	8.86	9.49	7.80	8.58	8.21	8.28	8.48	7.93	11.08
20年	2.63	4.37	4.82	8.64	6.60	7.62	8.72	8.24	8.22	8.61	10.51	8.53	9.62
21年	2.44	3.11	5.76	7.34	7.71	6.98	6.15	9.22	6.68	7.55	9.67	6.03	8.37
22年	1.77	3.35	4.23	6.14	6.39	6.05	6.07	7.78	7.43	6.89	9.23	7.10	9.44
23年	1.12	3.81	4.96	6.59	8.38	8.72	7.68	7.67	8.33	7.83	7.08	7.21	8.03
24年	2.54	3.73	3.15	4.97	7.50	8.00	8.04	7.90	6.34	5.45	8.93	5.84	7.30
25年	2.09	4.38	4.51	7.28	8.07	5.91	7.13	8.96	7.47	7.34	7.07	7.85	7.62
26年	2.31	4.16	5.62	5.68	6.60	7.19	7.95	6.97	8.47	6.85	7.23	7.83	7.07
27年	1.62	3.69	5.29	6.74	7.75	6.81	7.74	8.29	6.81	8.30	9.32	8.18	7.69
28年	2.69	3.39	4.19	5.80	5.98	8.23	6.77	9.23	6.79	5.34	8.87	6.67	6.84
29年	2.03	4.43	5.50	4.28	9.49	6.04	8.16	6.90	7.85	7.56	9.83	8.57	9.67
30年	1.87	3.95	5.34	5.73	8.39	9.41	9.89	8.11	7.64	7.04	9.61	8.74	9.31
令和元年	0.77	4.25	6.83	5.95	9.61	7.54	7.21	7.67	6.91	7.48	8.21	8.61	7.52
2年	2.81	4.99	6.03	8.99	8.30	8.81	9.95	8.87	8.13	9.34	8.49	8.07	7.01
3年	3.41	3.52	5.12	6.82	8.58	7.30	10.03	9.81	8.46	8.86	7.91	9.79	8.63
4年	1.32	5.02	7.13	8.79	10.24	10.58	13.78	10.96	10.60	8.99	9.14	10.66	10.04
5年	1.99	5.07	6.11	9.06	9.05	9.40	11.23	9.58	9.57	8.10	9.31	8.86	8.41
前年との差 (R5年 -R4年)	0.67	0.05	-1.02	0.27	-1.19	-1.18	-2.55	-1.38	-1.03	-0.89	0.17	-1.80	-1.63

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

数値が大きいほど肥満傾向が高い。

表1-4 年齢別肥満傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和5年度)(鳥取県:男)

(単位: %、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	2.18	3.54	7.65	7.43	7.71	7.32	10.28	11.42	9.94	10.39	14.16	13.31	7.68
19年	1.68	4.79	6.38	8.05	9.93	10.61	8.22	8.75	9.24	7.97	8.50	8.79	9.92
20年	3.15	3.77	4.06	8.32	6.54	9.13	10.55	8.43	9.09	8.54	13.94	8.50	12.01
21年	2.29	3.18	6.18	7.11	11.08	7.70	7.89	10.42	6.34	7.28	10.67	7.22	9.56
22年	1.19	3.24	5.24	6.31	6.64	5.38	7.16	7.38	7.83	6.57	10.05	8.59	11.27
23年	0.89	6.25	4.70	6.14	8.84	12.22	9.03	9.35	7.39	8.25	7.62	8.76	10.99
24年	3.22	3.91	2.55	5.49	6.31	7.45	8.42	8.07	6.62	6.02	9.19	5.78	7.09
25年	1.35	4.27	5.43	5.89	9.60	6.38	8.03	9.67	7.58	7.41	6.67	6.77	10.29
26年	2.84	4.04	5.88	4.91	5.99	7.91	8.95	7.97	8.69	6.07	7.06	7.38	6.02
27年	1.20	4.38	5.89	4.74	8.90	7.91	8.44	7.91	6.78	7.80	11.38	10.08	7.35
28年	2.28	2.37	4.44	5.40	6.00	9.09	7.20	9.09	6.23	6.18	8.78	5.55	8.16
29年	2.64	4.86	4.71	4.41	10.77	6.68	8.47	8.21	7.32	7.55	12.62	8.86	12.98
30年	1.28	4.70	4.35	5.76	7.14	10.17	9.56	8.81	9.26	7.04	9.38	11.29	9.35
令和元年	0.32	4.06	7.17	8.00	10.62	9.30	6.60	7.72	6.77	6.75	8.30	7.89	8.85
2年	3.63	5.29	7.44	9.97	10.00	9.95	9.70	10.69	9.76	10.64	9.55	9.24	7.72
3年	3.67	3.79	6.17	6.42	9.04	7.35	10.21	11.08	8.41	9.04	9.87	9.98	10.42
4年	1.74	4.21	7.02	8.45	11.34	14.25	16.18	11.12	11.20	10.15	10.31	15.45	11.98
5年	1.71	4.47	4.54	8.67	11.65	10.26	12.41	11.52	9.35	8.53	11.27	10.51	9.34
前年との差 (R5年 -R4年)	-0.03	0.26	-2.48	0.22	0.31	-3.99	-3.77	0.40	-1.85	-1.62	0.96	-4.94	-2.64

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど肥満傾向が高い。

表1-5 年齢別肥満傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和5年度)(鳥取県:女)

(単位: %、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	3.27	5.82	5.32	7.04	10.38	4.24	6.30	8.76	7.56	7.94	9.12	9.85	8.83
19年	1.81	4.95	5.76	5.44	7.74	8.32	7.36	8.42	7.20	8.62	8.45	7.05	12.27
20年	2.08	4.98	5.61	9.00	6.67	6.04	6.81	8.04	7.37	8.68	6.96	8.56	7.16
21年	2.60	3.04	5.33	7.57	4.07	6.20	4.32	7.98	7.04	7.81	8.70	4.81	7.13
22年	2.35	3.47	3.22	5.96	6.12	6.79	4.90	8.19	7.01	7.22	8.44	5.68	7.56
23年	1.37	1.39	5.24	7.04	7.91	5.04	6.22	5.89	9.31	7.39	6.53	5.75	5.16
24年	1.85	3.53	3.74	4.40	8.68	8.56	7.64	7.72	6.05	4.86	8.67	5.89	7.50
25年	2.83	4.50	3.56	8.66	6.39	5.43	6.21	8.23	7.35	7.25	7.49	8.92	5.00
26年	1.74	4.28	5.34	6.48	7.20	6.40	6.94	5.94	8.23	7.69	7.41	8.28	8.09
27年	2.02	2.94	4.68	8.83	6.57	5.72	6.98	8.67	6.84	8.82	7.11	6.22	8.03
28年	3.13	4.44	3.92	6.21	5.96	7.34	6.35	9.38	7.36	4.49	8.98	7.85	5.46
29年	1.44	3.96	6.32	4.15	8.16	5.38	7.84	5.62	8.43	7.56	6.99	8.27	6.19
30年	2.45	3.21	6.41	5.70	9.75	8.63	10.25	7.40	6.04	7.03	9.83	6.16	9.26
令和元年	1.23	4.44	6.51	3.78	8.58	5.60	7.84	7.62	7.06	8.21	8.11	9.33	6.18
2年	1.94	4.68	4.56	8.05	6.47	7.63	10.22	6.97	6.41	8.03	7.45	6.86	6.31
3年	3.13	3.25	4.03	7.23	8.13	7.25	9.86	8.41	8.51	8.67	5.90	9.61	6.77
4年	0.86	5.88	7.24	9.14	9.11	7.03	11.21	10.79	9.94	7.78	7.89	5.81	8.12
5年	2.26	5.72	7.80	9.45	6.33	8.52	10.08	7.51	9.80	7.63	7.26	7.12	7.45
前年との差 (R5年 -R4年)	1.40	-0.16	0.56	0.31	-2.78	1.49	-1.13	-3.28	-0.14	-0.15	-0.63	1.31	-0.67

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど肥満傾向が高い。

(4) 痩身傾向児の出現率

- ・ 痩身傾向児の出現率は、6歳、8歳～10歳及び14歳～16歳で全国を上回った。特に15歳は5.25%で全国(3.79%)を1.46ポイント上回った。
- ・ 15歳の痩身傾向児の出現率は、過去最多であった。

ア 前年度との比較

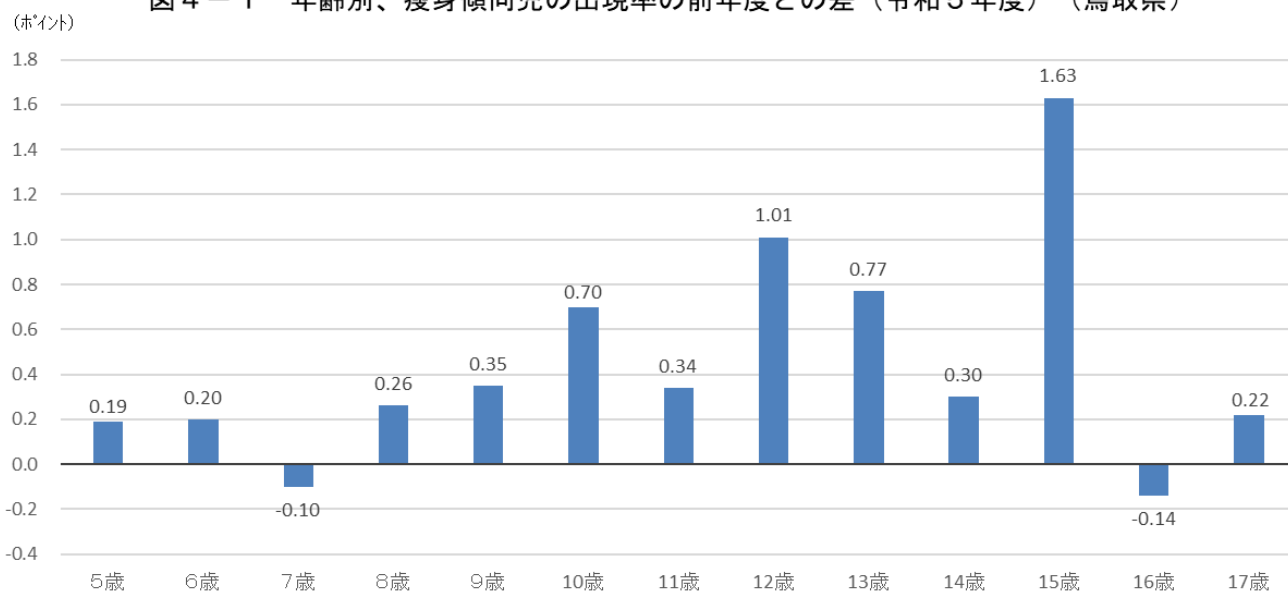
- ・ 前年度と比べると、7歳及び16歳以外の年齢で増加した。また、15歳については、現在の計算方式になった平成18年度以降で過去最多であった。
- ・ 男女別にみると、男子は8歳～12歳、14歳及び17歳で増加した。また、女子は10歳～15歳で増加した。

イ 全国との比較

- ・ 6歳、8歳～10歳及び14歳～16歳で全国を上回った。特に15歳は5.25%で全国(3.79%)を1.46ポイント上回った。

(図4-1～4-2、表1-6～1-8 統計表 表5-1～5-2)

図4-1 年齢別、痩身傾向児の出現率の前年度との差(令和5年度)(鳥取県)



(ポイント)

図4-2 年齢別、痩身傾向児の出現率の全国との差(令和5年度)

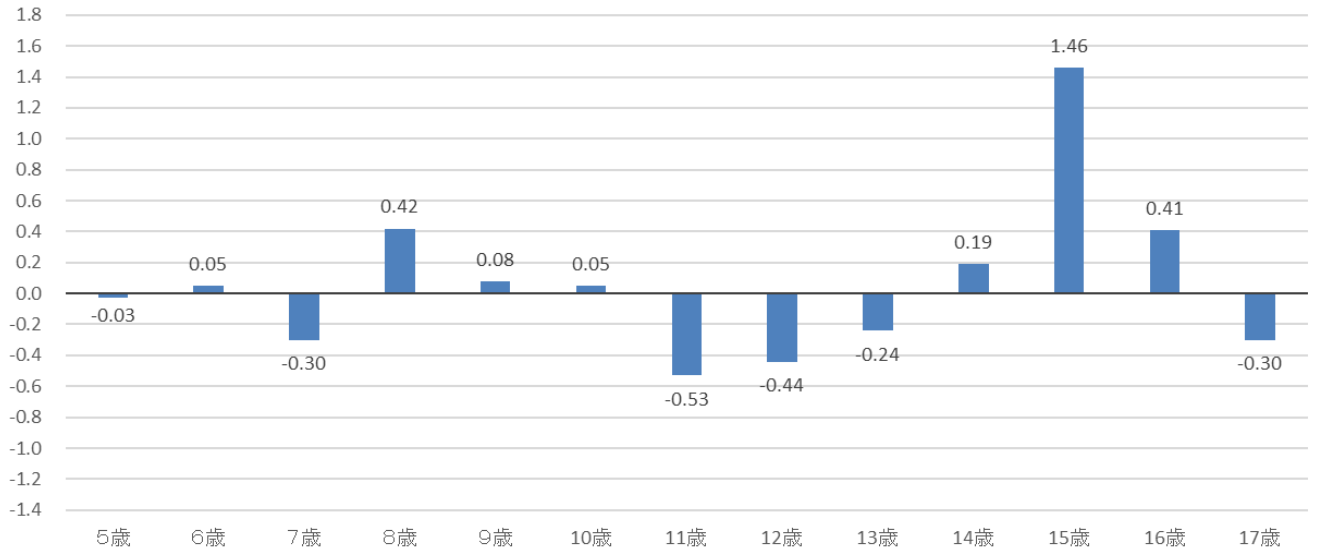


表1-6 年齢別痩身傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和5年度)(鳥取県:計)

(単位: %、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	0.14	1.01	0.59	0.90	1.53	3.08	2.26	2.34	1.72	1.70	2.48	1.26	1.88
19年	0.39	0.62	0.67	0.47	1.61	2.22	2.67	3.38	2.39	2.06	4.14	1.81	2.20
20年	0.81	0.63	0.75	0.64	1.82	3.13	2.13	3.89	2.90	2.85	2.98	2.09	1.35
21年	0.12	0.20	0.49	0.32	1.74	2.60	2.98	3.09	2.93	2.80	2.22	2.42	2.55
22年	0.51	0.10	-	0.95	1.71	1.79	3.75	2.40	2.26	2.06	2.41	1.21	1.70
23年	0.39	0.35	0.24	0.78	1.15	1.66	2.90	3.72	2.79	2.31	1.78	0.95	2.18
24年	0.18	0.71	0.83	0.72	2.11	2.25	3.09	2.39	2.49	1.73	1.76	2.46	1.31
25年	0.31	0.59	0.34	0.84	1.59	2.10	2.46	2.71	2.45	1.96	4.12	2.03	2.27
26年	0.53	0.13	0.52	0.75	1.14	2.22	2.98	2.91	2.14	2.26	3.86	1.86	2.38
27年	0.27	0.79	0.76	0.52	2.54	2.70	1.60	2.57	3.04	2.19	3.29	1.96	2.89
28年	0.30	0.26	0.93	1.64	2.06	2.47	3.05	3.64	2.65	3.12	2.18	2.38	1.46
29年	0.53	0.86	0.43	0.84	0.94	2.35	2.39	3.26	2.69	2.01	3.02	1.63	2.68
30年	0.30	0.52	0.72	1.00	0.94	2.60	2.48	3.80	3.41	2.25	2.51	3.12	3.27
令和元年	0.38	0.49	0.78	0.65	1.75	1.64	3.09	3.23	2.70	2.81	2.51	2.76	3.61
2年	0.38	0.21	0.53	0.57	1.39	1.73	2.48	3.31	2.28	2.16	2.62	3.14	2.02
3年	0.35	0.11	0.11	0.60	1.19	3.65	2.28	2.92	2.16	2.64	3.10	3.21	2.33
4年	0.09	0.28	0.39	1.19	1.62	1.87	2.05	2.38	1.98	2.78	3.62	3.51	2.23
5年	0.28	0.48	0.29	1.45	1.97	2.57	2.39	3.39	2.75	3.08	5.25	3.37	2.45
前年との差 (R5年 -R4年)	0.19	0.20	-0.10	0.26	0.35	0.70	0.34	1.01	0.77	0.30	1.63	-0.14	0.22

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下のものである。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど痩身傾向が高い。

表1-7 年齢別痩身傾向児の出現率の推移及び前年度との差（平成18年度～令和5年度）（鳥取県：男）

(単位：％、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	0.15	0.43	0.24	0.36	2.26	2.03	2.50	1.60	0.87	0.70	3.29	0.39	2.68
19年	0.14	0.37	0.18	0.52	1.27	2.85	3.12	2.82	1.30	2.29	2.90	2.20	1.77
20年	1.57	0.77	0.82	0.38	2.07	3.00	2.56	2.57	1.63	2.44	3.08	1.68	1.21
21年	0.12	-	0.21	0.16	1.02	3.14	4.07	3.18	1.78	2.24	2.47	2.93	3.17
22年	0.32	-	-	0.95	1.30	2.01	3.08	2.07	0.85	1.73	3.08	1.84	1.89
23年	0.57	0.44	-	1.15	1.18	1.82	3.80	2.45	2.15	1.87	1.55	1.82	1.91
24年	0.21	0.48	0.99	0.36	1.59	1.89	3.29	2.47	0.90	2.00	1.94	0.30	1.53
25年	0.62	0.66	0.50	0.90	1.80	1.91	1.73	1.36	1.67	0.91	4.25	2.38	1.36
26年	0.28	-	0.17	1.01	1.19	3.33	2.83	3.10	1.40	1.77	3.34	2.01	1.48
27年	-	0.41	0.80	0.16	3.41	2.36	1.86	2.68	1.74	1.32	3.61	1.80	2.01
28年	0.18	-	1.29	1.60	1.64	1.97	4.26	2.56	1.98	2.84	2.16	3.30	1.46
29年	0.15	1.06	-	0.80	1.07	2.20	2.18	2.88	2.25	1.56	3.48	2.32	2.84
30年	0.22	0.55	0.94	1.65	0.89	3.73	2.70	3.01	2.63	2.61	3.50	3.90	3.97
令和元年	-	0.73	0.75	0.78	1.86	1.65	3.84	2.53	2.12	3.66	2.14	3.85	4.39
2年	0.44	-	0.40	0.32	1.06	2.50	3.47	2.84	1.92	1.78	2.12	3.73	3.04
3年	0.43	-	0.22	0.64	1.44	4.50	2.52	2.42	2.31	3.05	3.31	2.98	3.05
4年	0.17	0.54	0.42	1.03	1.52	2.51	2.50	2.22	2.07	3.56	5.40	3.86	2.13
5年	-	0.24	0.27	1.89	2.29	2.63	2.53	2.46	2.01	3.91	4.79	3.74	3.03
前年との差 (R5年 -R4年)	-	-0.3	-0.15	0.86	0.77	0.12	0.03	0.24	-0.06	0.35	-0.61	-0.12	0.90

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下のものである。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど痩身傾向が高い。

表1-8 年齢別痩身傾向児の出現率の推移及び前年度との差（平成18年度～令和5年度）（鳥取県：女）

(単位：％、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	0.13	1.59	0.97	1.47	0.76	4.16	2.01	3.07	2.62	2.76	1.64	2.15	1.07
19年	0.63	0.89	1.21	0.42	1.98	1.57	2.20	3.92	3.47	1.82	5.42	1.40	2.64
20年	-	0.50	0.67	0.92	1.56	3.28	1.69	5.25	4.13	3.26	2.87	2.52	1.50
21年	0.12	0.41	0.78	0.49	2.51	2.03	1.84	3.01	4.12	3.35	1.97	1.90	1.92
22年	0.70	0.20	-	0.95	2.15	1.54	4.46	2.75	3.71	2.41	1.75	0.60	1.50
23年	0.20	0.26	0.49	0.41	1.11	1.49	1.93	5.08	3.47	2.78	2.02	0.12	2.45
24年	0.16	0.94	0.67	1.11	2.64	2.60	2.88	2.30	4.18	1.45	1.57	4.58	1.09
25年	-	0.51	0.18	0.79	1.37	2.30	3.22	4.13	3.29	3.08	3.99	1.68	3.18
26年	0.80	0.25	0.88	0.48	1.09	1.00	3.13	2.72	2.91	2.80	4.41	1.70	3.27
27年	0.54	1.20	0.71	0.90	1.65	3.04	1.32	2.46	4.36	3.09	2.95	2.13	3.80
28年	0.43	0.53	0.54	1.67	2.49	2.99	1.86	4.83	3.32	3.40	2.20	1.40	1.47
29年	0.89	0.64	0.88	0.88	0.81	2.51	2.60	3.62	3.17	2.46	2.55	0.94	2.50
30年	0.37	0.49	0.48	0.33	1.00	1.43	2.26	4.61	4.19	1.85	1.51	2.33	2.57
令和元年	0.78	0.24	0.81	0.51	1.64	1.63	2.29	3.96	3.30	1.97	2.89	1.69	2.83
2年	0.32	0.43	0.67	0.80	1.75	0.93	1.38	3.80	2.65	2.55	3.12	2.52	1.01
3年	0.26	0.22	-	0.56	0.95	2.73	2.03	3.47	2.01	2.21	2.88	3.43	1.58
4年	-	-	0.36	1.36	1.72	1.25	1.57	2.56	1.88	1.98	1.71	3.16	2.33
5年	0.56	0.74	0.31	1.00	1.64	2.51	2.25	4.39	3.52	2.17	5.73	2.97	1.86
前年との差 (R5年 -R4年)	-	-	-0.05	-0.36	-0.08	1.26	0.68	1.83	1.64	0.19	4.02	-0.19	-0.47

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下のものである。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど痩身傾向が高い。

2 健康状態（疾病・異常の被患率等状況）

- ・裸眼視力（1.0 未満）の者の割合は、すべての学校区分で前年度より減少した。
- ・鼻・副鼻腔疾患を持つ者の割合は、幼稚園以外で全国を上回り、特に小学校で 9.52 ポイント上回った。
- ・むし歯（う歯）の者の割合は、すべての学校区分で過去最少であった。
- ・アトピー性皮膚炎の者の割合は、すべての学校区分で全国を上回った。
- ・ぜん息の者の割合は、すべての学校区分で全国を上回った。

（1）前年度との比較

ア 裸眼視力（1.0 未満）

- ・学校区分別の割合は、幼稚園が 14.7%、小学校が 35.3%、中学校が 62.7%、高等学校が 73.7%となっている。
- ・前年度と比べると、すべての学校区分で減少し、特に高等学校で 6.9 ポイント減少した。

イ 鼻・副鼻腔疾患

- ・学校区分別の割合は、幼稚園が 0.4%、小学校が 21.9%、中学校が 17.8%、高等学校が 10.1%となっている。
- ・前年度と比べると、幼稚園及び小学校で増加し、特に小学校で 8.2 ポイント増加した。

ウ むし歯（う歯）

- ・学校区分別の割合は、幼稚園が 22.2%、小学校が 40.1%、中学校が 29.6%、高等学校が 34.3%となっている。
- ・前年度と比べると、すべての学校区分で減少し、すべての学校区分で過去最少であった。

エ アトピー性皮膚炎

- ・学校区分別の割合は、幼稚園が 1.7%、小学校が 5.4%、中学校が 4.9%、高等学校が 3.8%となっている。
- ・前年度と比べると、中学校及び高等学校で増加し、特に中学校で 0.8 ポイント増加した。

オ ぜん息

- ・学校区分別の割合は、幼稚園が 1.6%、小学校が 4.0%、中学校が 2.9%、高等学校が 1.6%となっている。
- ・前年度と比べると、幼稚園及び高等学校で増加し、小学校で減少した。

（表 2-1、図 5~9、統計表 表 6-1~表 12）

※健康状態については、各学校区分の傾向を見るため「平均値」で比較。

表 2 - 1 男女別、学校区別の健康状態平均値の前年度との比較—令和 5 年度（鳥取県）

(単位:%、ポイント)

区 分		計				男子				女子			
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
裸眼視力 1.0未満	令和4年	16.8	35.6	64.9	80.6	16.1	33.4	59.6	79.0	17.5	37.8	70.5	82.1
	令和5年	14.7	35.3	62.7	73.7	x	33.2	57.7	69.6	18.4	37.4	68.1	77.9
	差	-2.1	-0.3	-2.2	-6.9	-	-0.2	-1.9	-9.4	0.9	-0.4	-2.4	-4.2
鼻・副鼻 腔疾患	令和4年	0.2	13.7	18.1	10.3	0.4	16.3	21.9	11.9	-	11.0	14.1	8.6
	令和5年	0.4	21.9	17.8	10.1	0.6	27.1	20.9	12.8	0.2	16.6	14.5	7.2
	差	0.2	8.2	-0.3	-0.2	0.2	10.8	-1.0	0.9	-	5.6	0.4	-1.4
むし歯 (う歯)	令和4年	23.7	42.0	31.7	35.2	27.3	43.5	30.9	33.1	19.8	40.5	32.5	37.4
	令和5年	22.2	40.1	29.6	34.3	22.4	41.7	28.4	32.1	21.9	38.5	30.9	36.5
	差	-1.5	-1.9	-2.1	-0.9	-4.9	-1.8	-2.5	-1.0	2.1	-2.0	-1.6	-0.9
アトピー 性皮膚炎	令和4年	2.2	5.8	4.1	3.3	2.1	6.0	4.1	3.6	2.4	5.6	4.0	2.9
	令和5年	1.7	5.4	4.9	3.8	1.9	5.7	5.5	4.3	1.5	5.2	4.2	3.4
	差	-0.5	-0.4	0.8	0.5	-0.2	-0.3	1.4	0.7	-0.9	-0.4	0.2	0.5
ぜん息	令和4年	1.2	4.4	2.9	1.5	1.9	5.2	3.3	1.6	0.4	3.6	2.5	1.3
	令和5年	1.6	4.0	2.9	1.6	2.3	5.0	3.2	1.9	0.9	3.0	2.4	1.3
	差	0.4	-0.4	0.0	0.1	0.4	-0.2	-0.1	0.3	0.5	-0.6	-0.1	0.0

(注) この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。

「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。また、「-」は該当数値なし。

むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

(2) 全国との比較

ア 裸眼視力 (1.0 未満)

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、幼稚園及び小学校で下回り、中学校及び高等学校で上回った。特に高等学校で 5.90 ポイント上回った。
- ・男女別にみると、男子は高等学校で上回り、女子は中学校及び高等学校で上回った。

イ 鼻・副鼻腔疾患

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、幼稚園以外で上回り、特に小学校で 9.52 ポイント上回った。
- ・男女別にみると、男女ともに幼稚園以外で上回った。

ウ むし歯 (う歯)

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、小学校及び中学校で上回り、特に小学校で 5.29 ポイント上回った。
- ・男女別にみると、男子は小学校及び中学校で上回り、女子は高等学校以外で上回った。

エ アトピー性皮膚炎

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、すべての学校区分で上回った。
- ・男女別にみると、男女ともにすべての学校区分で上回った。

オ ぜん息

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、すべての学校区分で上回った。
- ・男女別にみると、男子はすべての学校区分で上回り、女子は小学校及び中学校で上回った。

(表 2-2、図 5~9、統計表 表 6-1~表 12)

表 2-2 男女別、学校区分別の健康状態平均値の全国との比較—令和 5 年度

(単位:%、ポイント)

区 分		計				男子				女子			
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
裸眼視力 1.0未満	鳥取県	14.70	35.30	62.70	73.70	x	33.20	57.70	69.60	18.40	37.40	68.10	77.90
	全 国	22.92	37.79	60.93	67.80	22.81	35.37	57.90	65.48	23.05	40.32	64.12	70.08
	差	-8.22	-2.49	1.77	5.90	-	-2.17	-0.20	4.12	-4.65	-2.92	3.98	7.82
鼻・副鼻 腔疾患	鳥取県	0.40	21.90	17.80	10.10	0.60	27.10	20.90	12.80	0.20	16.60	14.50	7.20
	全 国	2.99	12.38	10.48	7.60	3.69	15.06	11.91	8.43	2.26	9.57	8.99	6.74
	差	-2.59	9.52	7.32	2.50	-3.09	12.04	8.99	4.37	-2.06	7.03	5.51	0.46
むし歯 (う歯)	鳥取県	22.20	40.10	29.60	34.30	22.40	41.70	28.40	32.10	21.90	38.50	30.90	36.50
	全 国	22.55	34.81	27.95	36.38	23.40	36.05	26.46	34.91	21.68	33.52	29.50	37.92
	差	-0.35	5.29	1.65	-2.08	-1.00	5.65	1.94	-2.81	0.22	4.98	1.40	-1.42
アトピー 性皮膚炎	鳥取県	1.70	5.40	4.90	3.80	1.90	5.70	5.50	4.30	1.50	5.20	4.20	3.40
	全 国	1.48	3.25	2.99	2.39	1.64	3.43	3.18	2.57	1.32	3.07	2.79	2.21
	差	0.22	2.15	1.91	1.41	0.26	2.27	2.32	1.73	0.18	2.13	1.41	1.19
ぜん息	鳥取県	1.60	4.00	2.90	1.60	2.30	5.00	3.20	1.90	0.90	3.00	2.40	1.30
	全 国	1.15	2.87	2.00	1.50	1.38	3.43	2.34	1.66	0.91	2.28	1.65	1.33
	差	0.45	1.13	0.90	0.10	0.92	1.57	0.86	0.24	-0.01	0.72	0.75	-0.03

(注) この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。

「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。また、「-」は該当数値なし。

むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

(3) 30年前(親の世代:平成5年度)との比較

ア 裸眼視力(1.0未満)

- ・学校区分別の割合を比べると、幼稚園以外で増加した。
- ・男女別にみると、男女ともに幼稚園以外で増加した。

イ むし歯(う歯)

- ・学校区分別の割合を比べると、すべての学校区分で大幅に減少した。
- ・男女別にみると、男女ともにすべての学校区分で大幅に減少した。

ウ ぜん息

- ・学校区分別の割合を比べると、すべての学校区分で増加した。
- ・男女別にみると、男女ともにすべての学校区分で増加した。

(表2-3、図5~9、統計表 表6-1~表12)

表2-3 男女別、学校区分別の健康状態の30年前(親の世代)との比較-令和5年度(鳥取県)

(単位:%、ポイント)

区 分		計				男子				女子			
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
裸眼視力 1.0未満	30年前	25.2	25.8	47.6	60.9	23.9	22.8	42.7	57.5	26.4	28.8	52.8	64.4
	令和5年	14.7	35.3	62.7	73.7	x	33.2	57.7	69.6	18.4	37.4	68.1	77.9
	差	-10.5	9.6	15.1	12.8	-	10.4	15.1	12.1	-8.0	8.6	15.3	13.6
むし歯 (う歯)	30年前	84.9	93.2	92.8	93.8	84.6	93.0	91.1	92.5	85.2	93.5	94.6	95.1
	令和5年	22.2	40.1	29.6	34.3	22.4	41.7	28.4	32.1	21.9	38.5	30.9	36.5
	差	-62.7	-53.1	-63.2	-59.5	-62.2	-51.3	-62.7	-60.4	-63.3	-55.0	-63.7	-58.6
ぜん息	30年前	0.1	2.4	1.7	1.0	0.1	2.8	2.1	0.9	0.1	2.0	1.3	1.0
	令和5年	1.6	4.0	2.9	1.6	2.3	5.0	3.2	1.9	0.9	3.0	2.4	1.3
	差	1.5	1.6	1.2	0.6	2.2	2.2	1.1	1.0	0.8	1.0	1.1	0.3

(注) この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。

「x」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。また、「-」は該当数値なし。

むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

図5 裸眼視力(1.0未満)の者の割合の推移(昭和23年度~)(鳥取県)

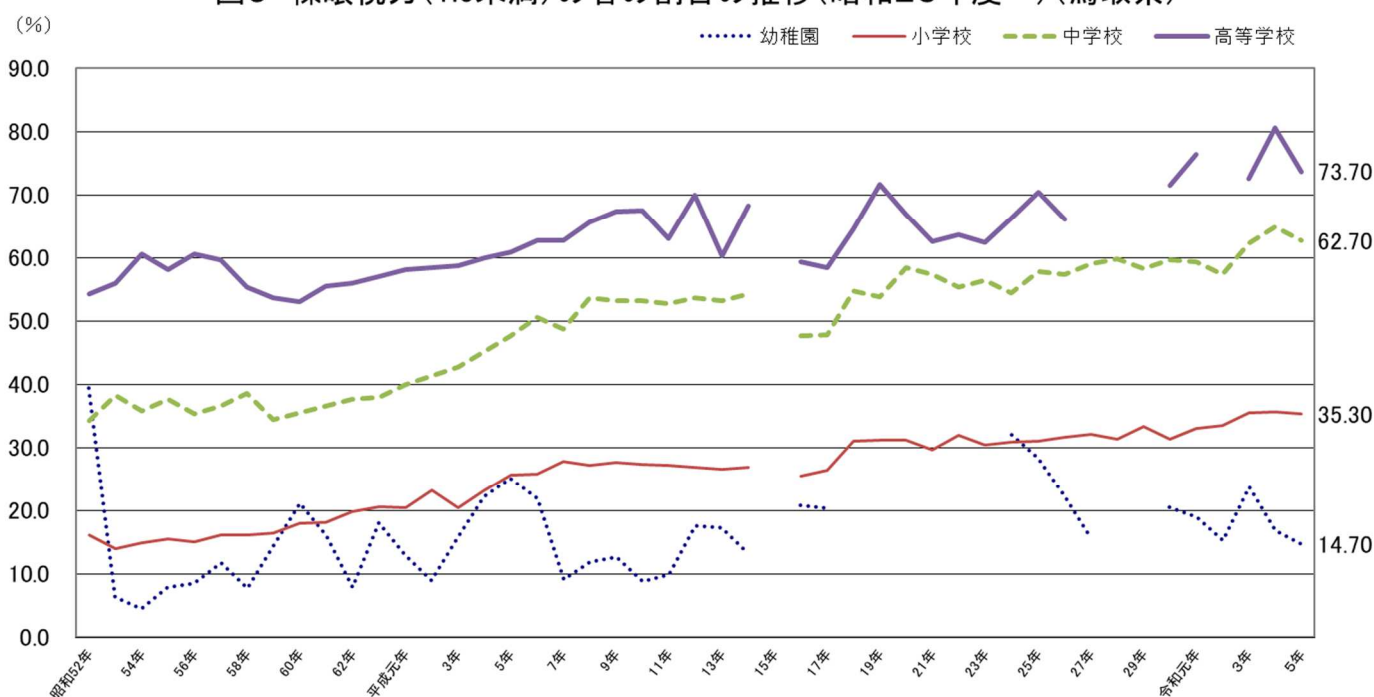


図6 鼻・副鼻腔疾患を持つ者の割合の推移(平成19年度～)(鳥取県)

(%)

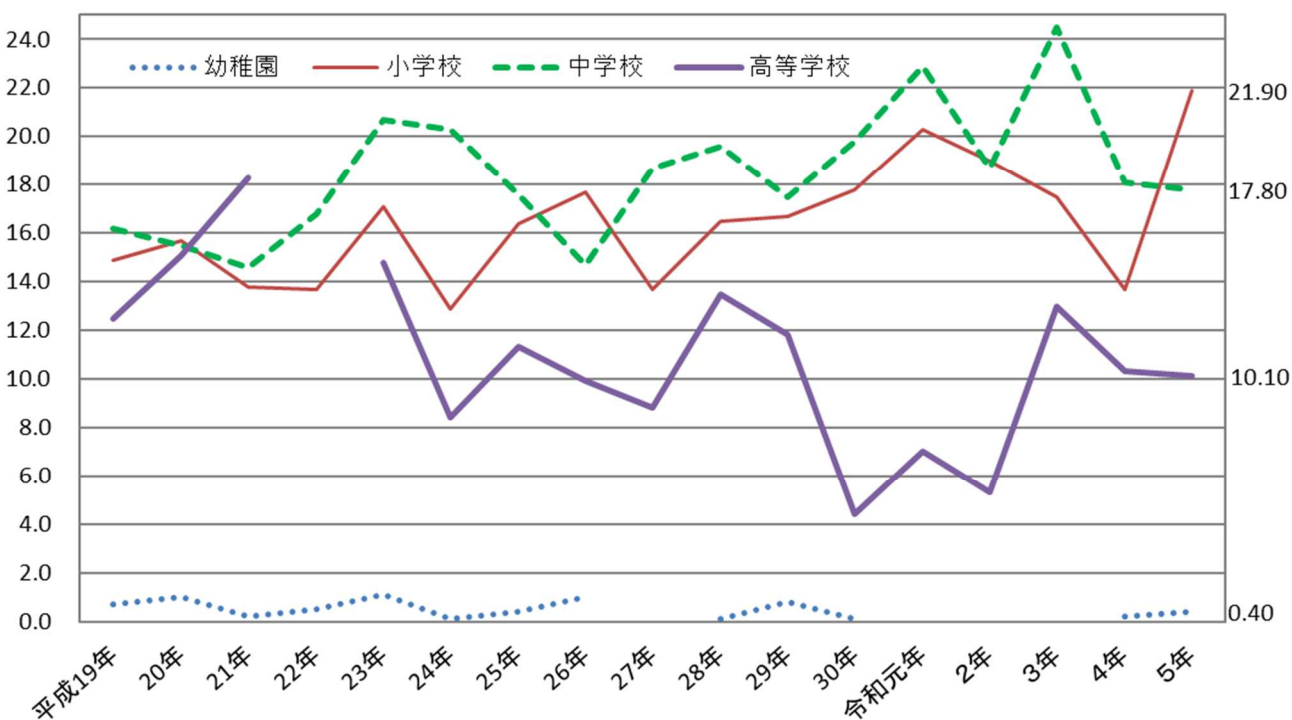


図7 むし歯(う歯)の者の割合の推移(昭和52年度～)(鳥取県)

(%)

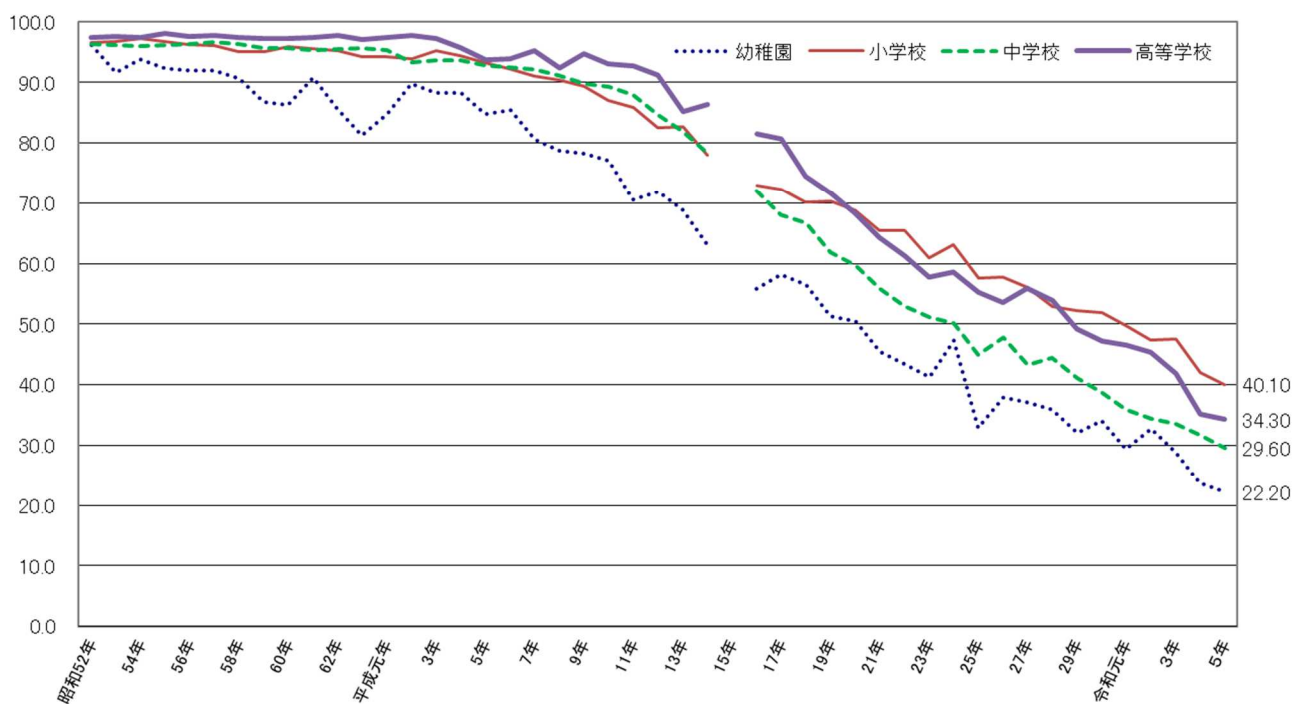


図8 アトピー性皮膚炎の者の割合の推移(平成18年度～)(鳥取県)

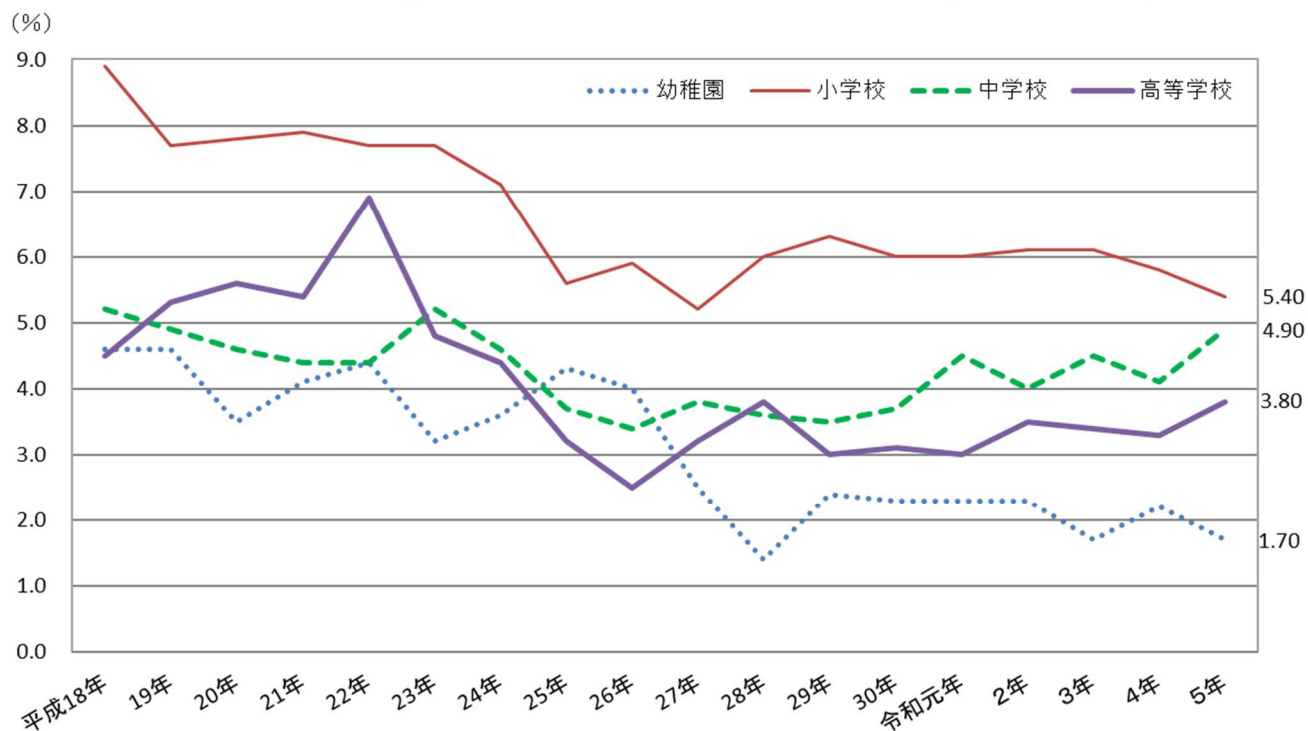
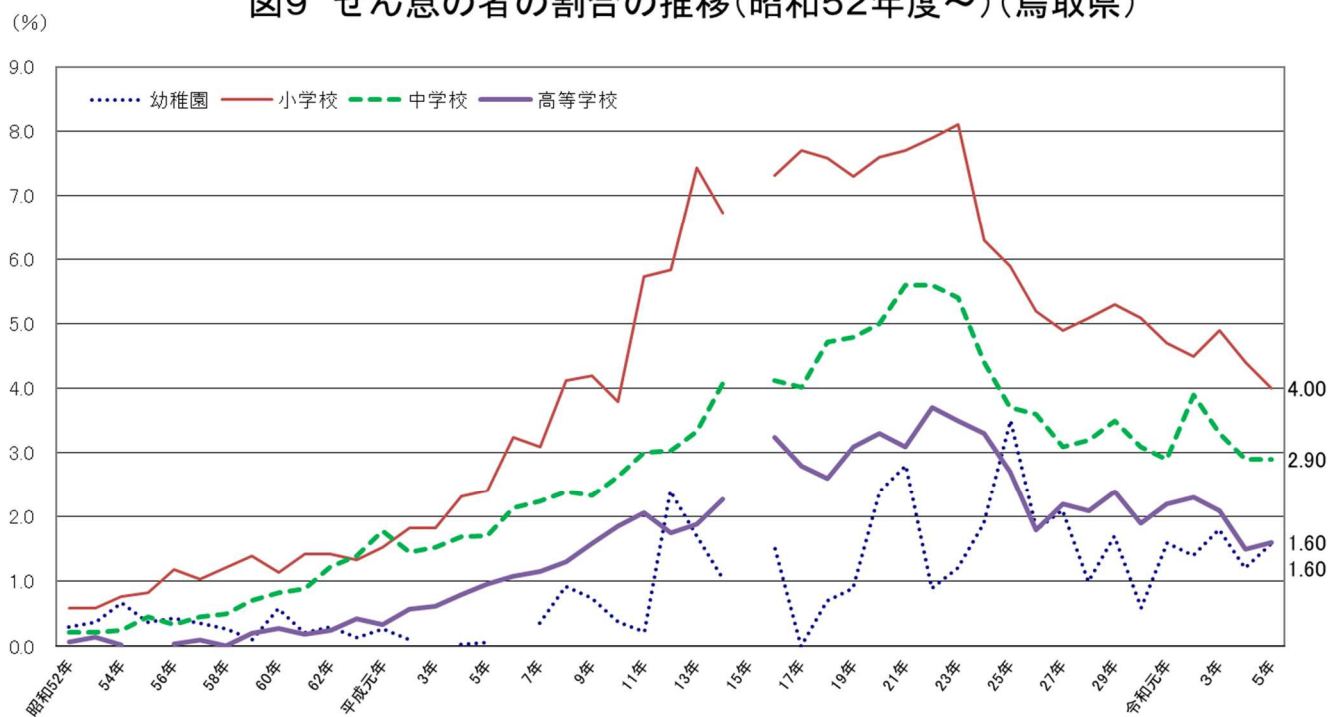


図9 ぜん息の者の割合の推移(昭和52年度～)(鳥取県)



3 相談員配置状況

相談員の定期配置が週4時間以上の割合は、中学校が42.5%、高等学校が9.4%で、全国と比べそれぞれ16.5ポイント、2.3ポイント上回った。

相談員の定期配置が週4時間以上の割合は、小学校が4.2%で前年度と比べ0.8ポイント上回り、中学校が42.5%、高等学校が9.4%で、それぞれ3.0ポイント、7.8ポイント下回った。

また、全国と比べると中学校が16.5ポイント、高等学校が2.3ポイント上回った。

(表3、図10-1~10-3 統計表 表13)

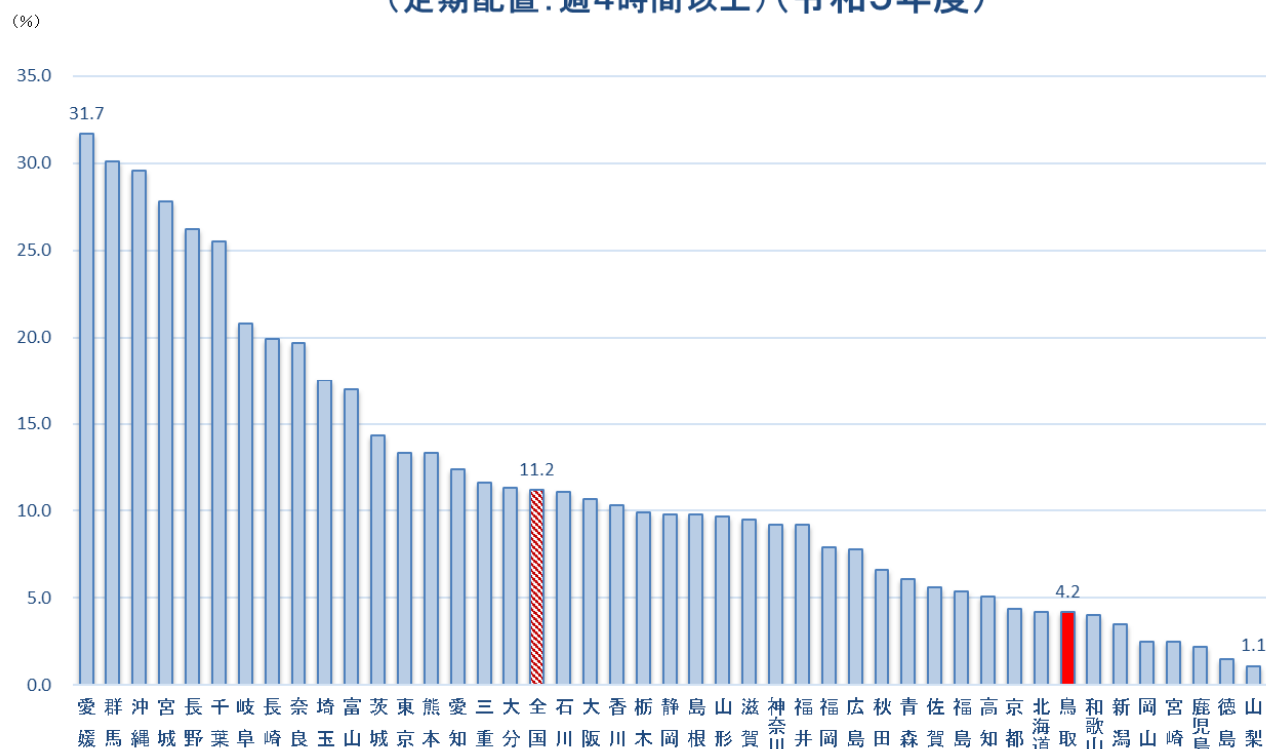
表3 相談員配置状況(令和5年度)(鳥取県及び全国)

(単位: %)

区 分		有				無
		定期配置		不定期配置		
		週4時間以上	週4時間未満			
小学校	鳥取	4.2 (3.4)	1.4 (0.9)	1.8 (2.8)	92.7 (92.9)	
	全国	11.2 (11.3)	5.0 (4.7)	12.4 (14.4)	71.5 (69.7)	
中学校	鳥取	42.5 (45.5)	2.8 (-)	3.2 (4.4)	51.5 (50.1)	
	全国	26.0 (24.7)	2.8 (2.8)	7.7 (7.2)	63.5 (65.3)	
高等学校	鳥取	9.4 (17.2)	3.1 (-)	- (3.1)	87.5 (79.7)	
	全国	7.1 (6.9)	1.9 (1.7)	6.1 (5.5)	84.8 (86.0)	

※ () 内は前年度数値

図10-1 都道府県別小学校の相談員配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和5年度)



注) 岩手県、兵庫県、山口県については、数値なし

図10-2 都道府県別中学校の相談員配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和5年度)

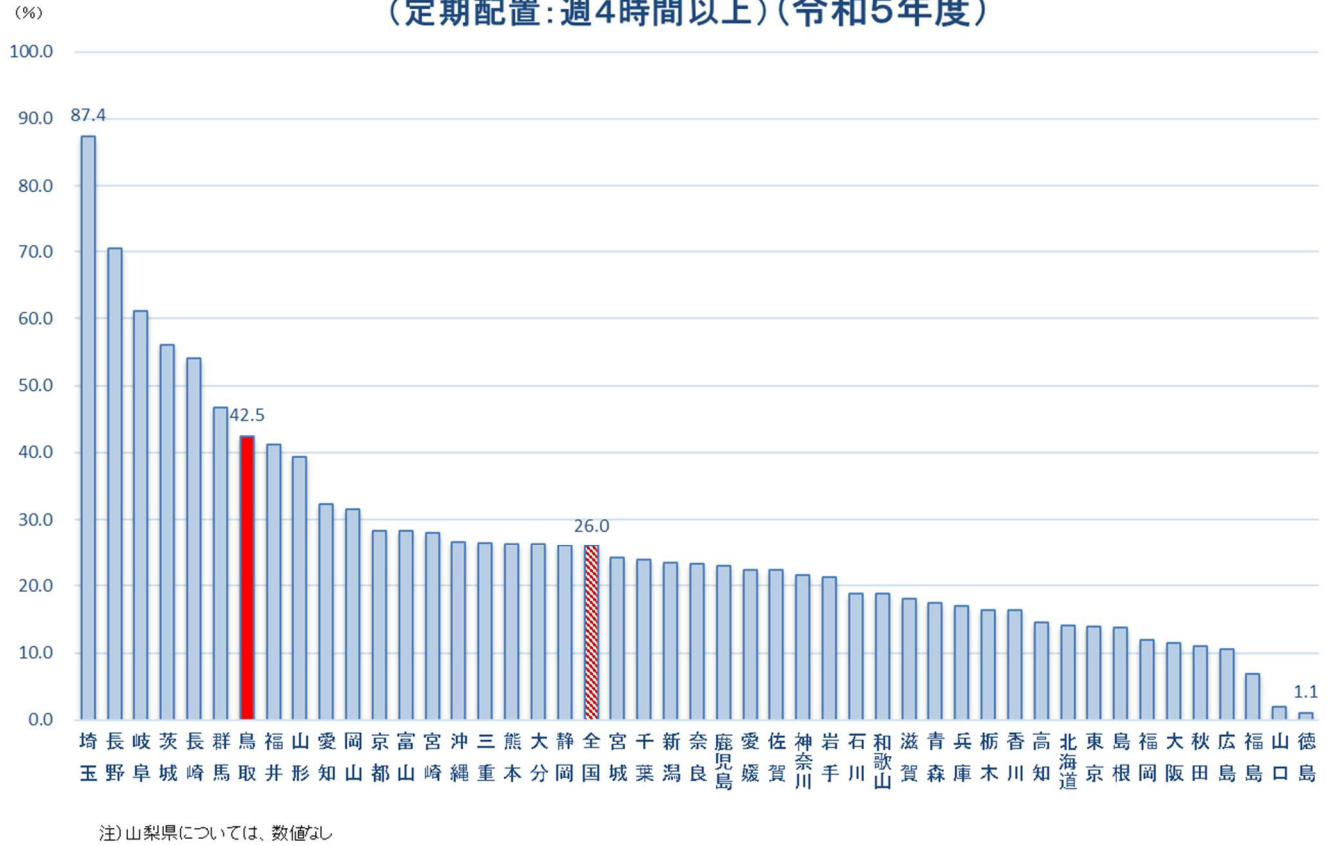
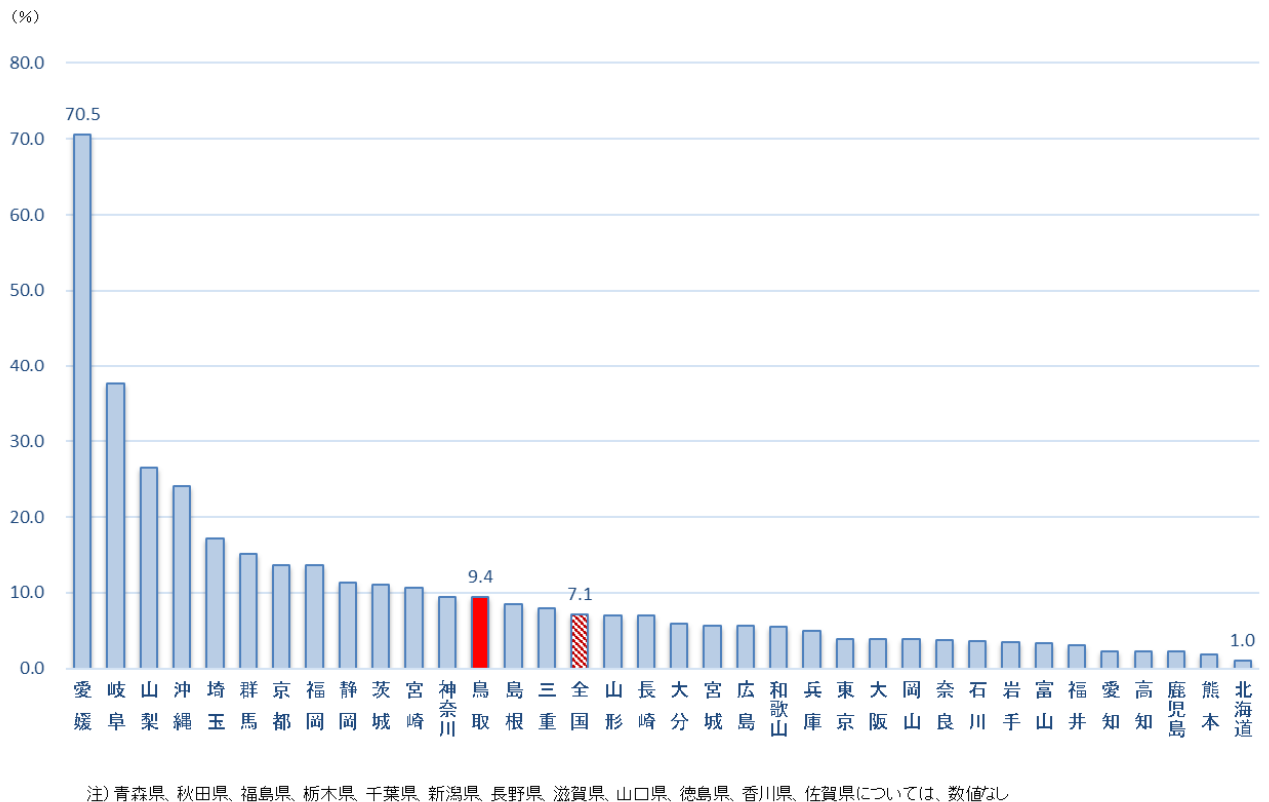


図10-3 都道府県別高等学校の相談員配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和5年度)



4 スクールカウンセラー配置状況

スクールカウンセラーの定期配置が週4時間以上の割合は、高等学校が82.8%で、全国と比べ37.7ポイント上回った。

スクールカウンセラーの定期配置が週4時間以上の割合は、小学校が13.5%、中学校が61.1%、高等学校が82.8%で、前年度と比べそれぞれ5.3ポイント、8.5ポイント、21.9ポイント上回った。

また、全国と比べると高等学校が37.7ポイント上回った。

(表4、図11-1~11-3 統計表 表14)

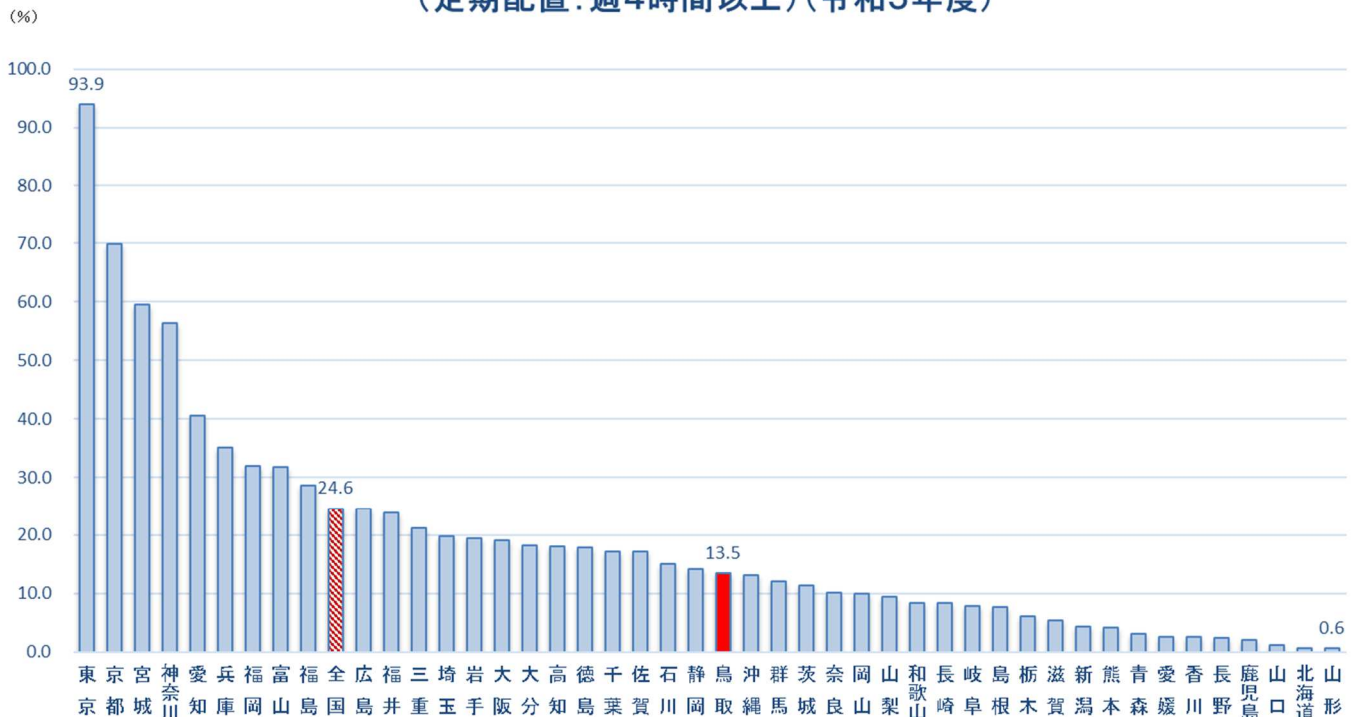
表4 スクールカウンセラー配置状況(令和5年度)(鳥取県及び全国)

(単位: %)

区分		有				無			
		定期配置		不定期配置					
		週4時間以上	週4時間未満						
小学校	鳥取	13.5	(8.2)	66.7	(76.0)	12.3	(15.8)	7.6	(-)
	全国	24.6	(24.4)	38.1	(38.6)	30.3	(28.3)	7.0	(8.7)
中学校	鳥取	61.1	(52.6)	37.3	(36.9)	1.6	(1.6)	-	(8.9)
	全国	66.1	(64.5)	21.7	(21.5)	10.0	(11.6)	2.2	(2.4)
高等学校	鳥取	82.8	(60.9)	14.1	(39.1)	-	(-)	3.1	(-)
	全国	45.1	(41.2)	31.7	(34.8)	18.2	(17.8)	5.0	(6.2)

※()内は前年度数値

図11-1 都道府県別 小学校のスクールカウンセリングの配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和5年度)



注)秋田県、宮崎県については、数値なし

図11-2 都道府県別 中学校のスクールカウンセリングの配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和5年度)

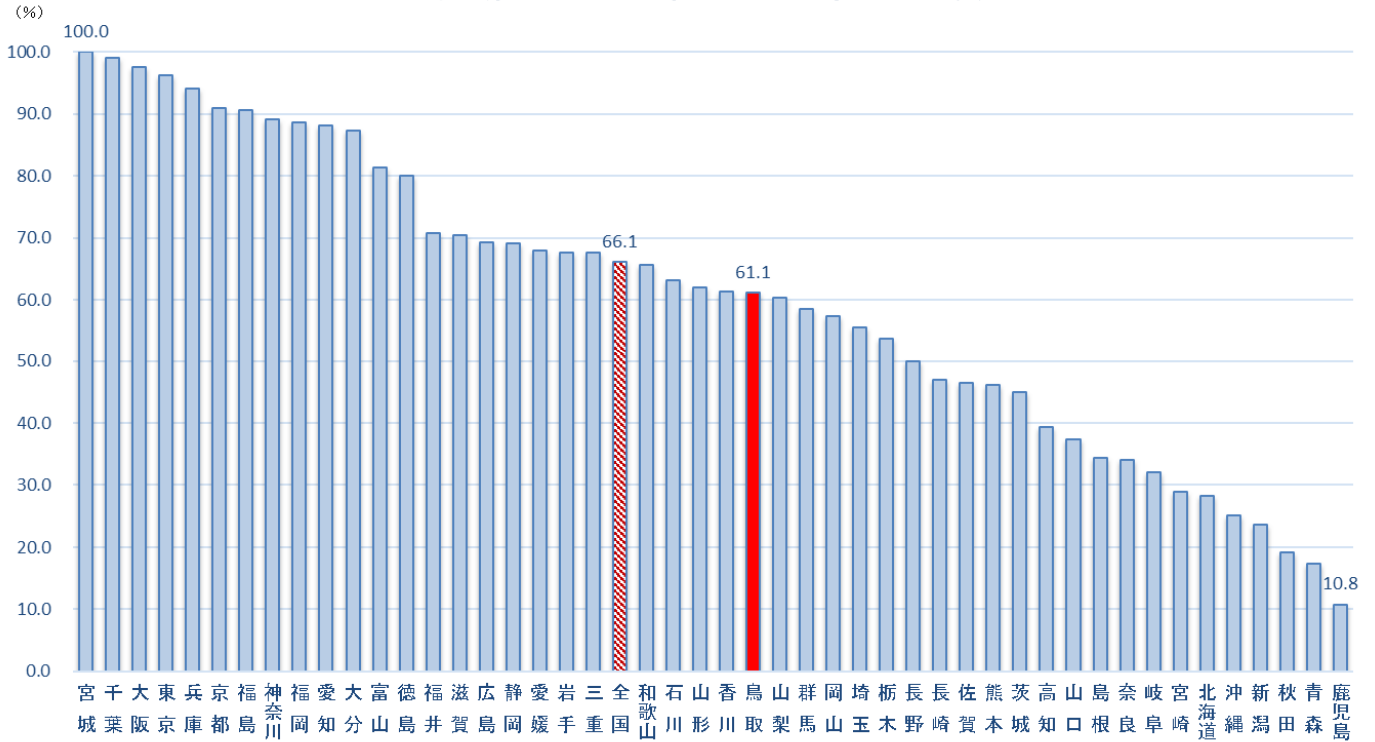
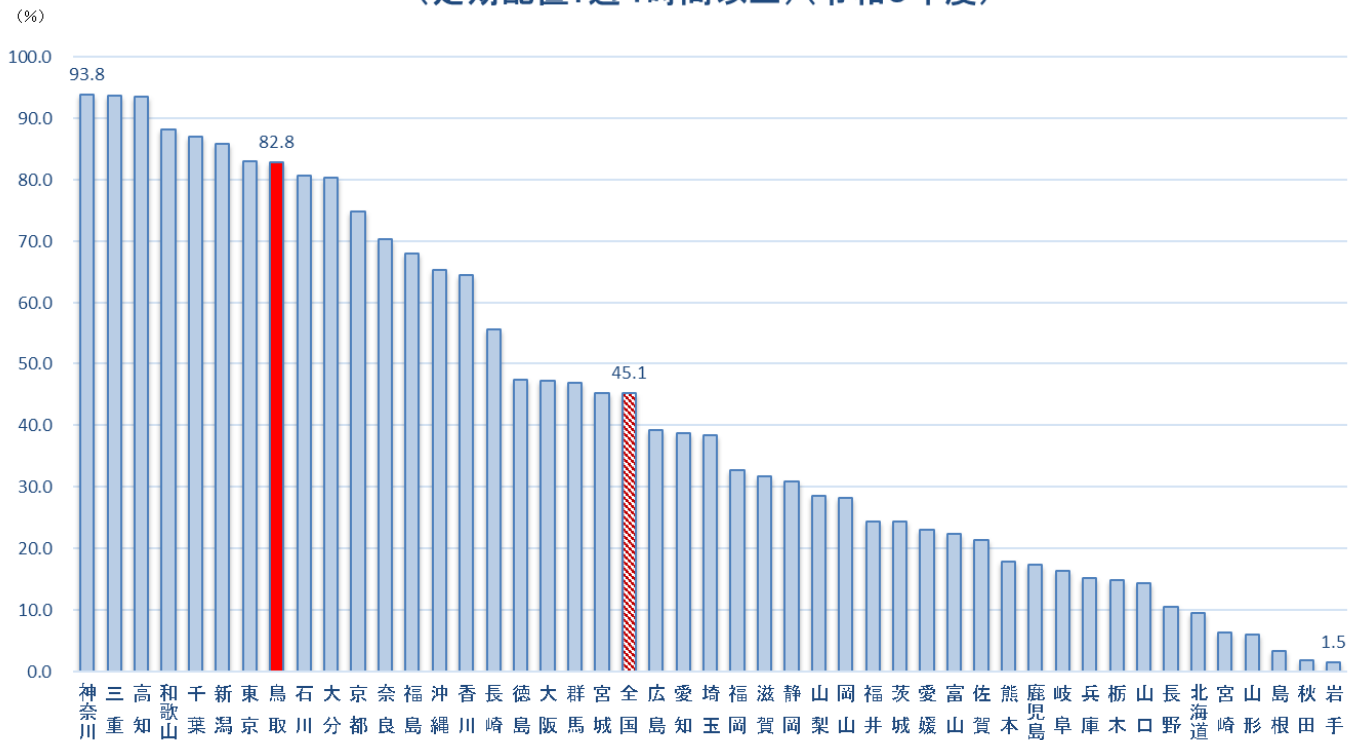


図11-3 都道府県別高等学校のスクールカウンセリングの配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和5年度)



注) 青森県については、数値なし

